新女界

主筆 安井哲子

東京 新人社 發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參卷第六號目次

◎社説

◎趣味のいろ／＼　安井哲

◎講壇

◎女子の解放　海老名彈正

◎慰苑

◎女子教育の標準　村田勤

◎見ぬ力　和田孤峰

◎おきのさん　平山訓子

◎日誌の中より　雛菊

◎覺え帳より　はくや

◎人のうつくし　野口せい子

◎家庭

◎家庭に對する希望　高等女學校卒業生十餘名

◎子女教育と現代思潮の解釋　海老名みや

◎時事其折々

◎墨國革命の因果

◎清國新內閣

◎佛國陸軍卿の慘死

◎隨感

◎習慣にとらるゝ弊　海老名みや子

◎いろ／＼なる歎待ぶり　安井哲子

◎若葉のかげより　千香子

交際場裡に文明の美花を開かるゝ紳士も奥さんも孃さんも香り深き千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價　七十錢　卅五錢　廿五錢　十七錢

試用見本郵劵代用あれ

スワン石鹸

純白で湯水に浮き價安くて品の善いスワン石鹸は至る處の小間物、化粧品藥舗にあり　定價廿二錢

スワン石鹸日本一手販賣

東京馬喰町四丁目

山岸三之助

電話浪花三七九三

振替口座一九九七八

女子商業講義

▲自宅習學と講義錄▲

◉當日本女子商業學校自宅修學部は、本校に通學する事の出來ぬ方々の爲めに、自宅修學の便法を設けて、毎月一回此講義錄を發行するのであります。

◉自宅修學希望の方は、何時入學なされても差支ありません。規定の手續に依つて、入學證に入學金五十錢と講習料金三ヶ月分以上(一ヶ月三十錢、六ヶ月分金一圓七十錢、十二ヶ月分金三圓三十錢)を添へて御申込みになりますれば、講義錄は其第一號から順を追うて發送いたします。

◉自宅修學生規則御入用の方は、郵券貳錢を御送りになりますれば、直ちに送呈いたします。

△講習料納入の便法▽

◉講習料の納入は、郵便爲替其他の方法に依らるゝも差支はありませんけれど、最も便利な方法は、本校出版部の振替貯金口座「東京壹七〇七七番」に依らるゝがよろしう御座います。其振替貯金用紙は本校自宅修學生規則書の中に添へてありますから、始めて入學の方は、右用紙を御使ひなさい。また郵便局にある用紙を請求して、御用ゐなされてもよろしう御座います。用紙には、前記の振替貯金口座番號、及び住所氏名金額等を明確に記入なさいまし。

◉また、講習料は爲替取扱局のない地に限りまして、郵便切手を代用してもよろしう御座います。但し此場合には、三錢以下の切手でなくてはいけません。そして、必らず一割増しとして御送附下さいまし。

東京市麴町區土手三番町二十一番地
私立日本女子商業學校 自宅修學部 出版部
電話番町二一二七番
振替貯金口座東京一七〇七七番

人道講話

六月一日發行
第十七號

文學博士村上專精先生述

講話主題 至誠の研究

一、寶の研究……（第十三號）
二、至誠とは何ぞや……（第十四號）
（中庸に就きて誠の根本義を定む）
三、至誠の標準……（第十六號）
四、逆境は至誠の母なり

感話
◎西有穆山師及び重野博士の兩先輩
◎雨宮敬次郎君並に島地默雷師の最後に就て
◎六十一年間の夢物語……（第十三號以下）

雜録
◎先賢古德の面影……岩上行坡
仁齋先生○象山先生○君平先生○山陽先生○芭蕉翁○塙檢校○良寛上人等先賢古德の面影を描出して興味津々たり……（十三號以下）

大遠忌記念號

親鸞聖人

人道講話第十五號　四月發行
（村上專精先生述）

一、略傳
二、時代の方面より見たる親鸞聖人
三、歴史の方面より見たる親鸞聖人
四、性行の方面より見たる親鸞聖人
五、信仰の方面より見たる親鸞聖人
六、撰述の方面より見たる親鸞聖人
七、感想

◎入會の手續◎

一、人道講話會は教育道德宗教に關する講話を直接又は通信に依つて聽かんと欲する者を以て組織す
一、本會は文學博士村上專精先生を推戴して會長とす
一、本會は本會の目的を達せんがため毎月一回講話會を開き雜誌『人道講話』を發行す
一、本會は何人をも選ばず入會を許す
一、本會に入會志望の者は住所姓名を明記し壹ケ年以上の會費を添へ本會に申込むべし但し壹ケ年會費金六十錢とす
一、本會々員には毎月雜誌『人道講話』を無代にて分つ

見本 金六錢但五厘切手に限

發行所　東京小石川區丸山町　振替東京二〇三二四　人道講話會

■最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の有する最大特色也

女子手藝講義録

普通科
高等科
一ヶ年終了

會員募集

■**手藝の素養なき婦人は文明の婦人たる資格を有せざる人なり**

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむるは本會の講義録也講師は斯道の大家四十名世界の技術と最新の流行と最新の考案を最新式の説明法を以て簡易に講述す

共立女子職業學校
櫻友會内手藝普及會編

無料進呈 入會規程 内容見本

圖解入（毎號石版彩色木版數十個入）

質疑 會員の質問は最も丁寧に應答を示す

會費

■普通科■	ヶ月	金参拾銭
	半ヶ年	金壹圓七拾銭
	壹ヶ年	金参圓貳拾四銭
■高等科■	壹ヶ月	金参拾五銭
	半ヶ年	金壹圓九拾九銭
	貳ヶ年	金参圓七拾八銭

■**社交上精神上家政上の成効を希望する**婦女子は速に入會せよ

入會申込所
東京 日本橋
大倉書店

六月革新號出來

婦女界

◎自覺せよ若き女！……内田魯庵

▲不健全なる孝道を排す……慶應義塾大學教授　向井軍治

▲如何なる音樂が家庭に適するか……理學士　田邊尚雄

▲苦鬪廿餘年に亘る婦人問題……女子學院長　矢島揖子

▲共公事業に活動する西洋の娘……パチラーオブアーツ　河井道子

◎西洋の家庭は家族主義より成る……文學博士　姉崎正治

◎最も恐るべき子供の惡癖……高島平三郎

閨秀小說「妹」……國木田治子

▲家庭に於ける佛光寺裏方

▲情史に見えたる貞婦　大倉桃郎

▲夏の室内裝飾

▲洋服の扱ひ方

▲故郷の情味

▲海外婦人界

▲文藝其月々

▲六月の園藝

▲家庭の實驗

▲ミシン裁縫の話

▲夏季の婦人用品

懸賞募集

親に對する娘の希望…一等＝十圓

其他文藝の募集あり詳細本誌に掲載

◎娘に對する親の希望

▲家庭の情味を怠るな……鎌田榮吉

▲人らしき人となれ……宮田脩

▲外貌裝飾に氣をつけよ……井上哲次郎

▲園藝に趣味を有たせたい……大山捨松子

▲實地の稽古が必要……兵頭榮子

▲借金の恐しさを知れ……横井時敬

▲當世一流の人に愚鈍の子……尾崎行雄

▲鍛練と修養とを怠るな……棚橋絢子

▲實際の稽古は卒業後……阿部ゆう子

▲先方の家族と同化せよ……森村市左衛門

▲親には逆らふな……中川謙二郎

▲學問と從順とは矛盾せぬ……竹越與三郎

二頁大彩色石版　庭の花　井川洗厓

極彩色石版　美人草　大下藤次郎

一冊十五錢　六冊九十錢　十二冊一圓七十五錢

東京神田區表神保町　同文館　振替口座東京一三五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第参巻第六號

むかし二人同じ船にのりてゆくに、一人は性急也、日和あしく、船の遅きを苦しみて、晝夜心をなやまし、形かじけたり、一人は性をだやか也、船のをそきを苦しまず、よく食し安く寝れて、顔色うるはし、其所につきしかば、二人一時に陸にあがる、此間船をそきさて、心をくるしめし者何の益あるや、只自らくるしめるのみ、是れ心みじかき人の、誠さすべし、天下の事、我が力になしがたき事は、只天に任せ置く可し、心を苦しむるは愚也。

（篤　信）

趣味のいろ〳〵

安井哲

人の趣味といふ者は誠に面白い者で、音樂の好きな人もあれば、繪畫に熱心な人もあり、或は又園藝に趣味を有つ人もあります。そこで同趣味の人々は假令職業が違つて居ても、身分が同じでなくとも、互に一種の親交を結び得るといふ事も亦實に面白い事であります。或時電車の中に美くしい紅葉の植木鉢を有つて居た方がありました。其向側に坐つて居た方が連りに之れを眺めて居られましたが、其美くしい枝振りを賞讃せられると、やがて話は盆栽に移り誠に愉快さうに打解けて話し合つて居られるのを見た事があります。かくお互に姓名も知らぬ間柄でありながら、恰も舊知の如くに親しく話し合ふ事の出來るのは、全く同一趣味を有つて居るからであります。一定の職業以外に何か高尚な趣味があつて、常に心を慰め又之れを媒として多くの人々と和合する事が出來ましたならば、如何に樂しい事で御座いませう。

そこで此趣味といふ者は人々に依つて違つて居りまして、他人を強ふる事は出來ませんけれども、自然の感化を受けて他人の趣味に同化する事は出來がたくはありません。例へば音樂の趣味に富んだ社會に生活して居ますと、自分も自然に之れを味ふやうになり、園藝の好きな人の側に久しく居れば、自分も亦其趣味を養はれる事は有りがちの事であります吾々は何か高尚な樂みを有つて居て、折々心を慰むる事が出來れば誠に幸福で、殊に忙しい殺風景な生

活を續けねばならぬ人々には一層必要であります。私の知つて居る或英國の心理學者は、夕食後「ピアノ」を彈じて慰むのが常で、時には令孃の「ヴアイオリン」と合奏せらるゝ事もありましたが、平生むづかしい事を考へて居らるゝ方には最良い樂しみであるのみならず、他人の目にも誠に奥ゆかしく見ゆるものであります。

併吾々の趣味は音樂とか繪畵とかの特殊な技術以外、種々なる形に於て現はれるものであります。例へば多人數集つて世間話をして居ましても、各々の趣味の差違が現はれて來ます。卽ち或種類の話は或人々には面白くありますけれども、他の人々には少しも愉快でないのみか、却つて聞き苦しく感せしむる事もあり、又或人は恥ぢて口に出さぬ事も、他の人は平氣で之れを公言する事もあります。是等は決して道德上のむづかしい問題として論ずるのではなく――唯人々の趣味の違ひで、かゝる事は美くしいと感じ又かゝる事は醜いと感せねばならぬと理屈せめにするわけにはまゐりません。其人の育ち柄と敎育とがかゝる差を生じたのであります。

併し此理屈に訴へる事の出來ぬ一種の奥ゆかしい感情は、一方には大に吾々の道德問題と關係を有する者で、獨善を善と認め、惡を惡と認むるのみでなく、或種の思想或種の發表に對して眞に美くしいと感じ、或種の者に對して眞に醜いと感ずるのは、吾々を向上せしむるに大切な事であります。例へば社會の裏面にある種々の罪惡を面白さうに話しあひ、又は之れを詳細に世間に紹介するなどゝいふ事は趣味の低い者で、之れに依つて吾々の精神は不知不識墮落する樣になります。勿論かゝる社會を研究的に觀察するといふのは全く別の問題で、之れには最眞面目な又最同情的な心狀を有つて居るのであります

吾々は聖人でない限り、全く社會の暗黑方面又は他人の醜行に耳目を傾けぬわけにはまゐりません。否社會の一員たる我等は、かゝる方面を全く顧みぬと申すわけにはまゐりませんが、かやうな事は成る

べく心に秘めて輕々しく雑談の中に加へて笑ひ興せぬ方がおくゆかしく、殊に年若き人々の會合した場合、又は男女打混じて居る席などでは、最謹んで口にすべき問題ではありません。餘り眞面目な交際は面白味がないとは人々の言ふ所でありますが、併其反面に趣味の低い交りが必しも愉快であるとはいはれません。近來は新聞の記事にも讀むまじき事が多くあり、又人々の會合にも聞かぬに勝る事を聞く事が少くありませんから、吾々は時々美くしい天然に接し、或は高尚な文學でも讀んで精神狀態を一變しませんと、趣味は不知不識低くなり、終には高尚なる快樂の味を忘れる樣になります。

夏山のしげみは風ももらさねど
若葉はそよぐおとぞ涼しき　（枝直）

皇太子妃殿下の御病氣

去月以來皇太子妃殿下葉山御滯在中豫らざる御病氣にかゝらせられ、御病床につき給ひしとの報知が新聞紙に傳へられてより、一般國民の心情はいたく動かされ、一日も早く御平癒の程を祈つて居りましたが、其後はか〲しく御快癒に向はせられず餘病をも御併發なされし由の報導が傳はりましてからは、毎朝如何なる御樣子かと新聞が待ちもどかしく思はれまして、何とぞして次代の國母陛下の御身の上に恙なかれと心から祈りました事で御座いました。幸にも其後追々御快方に向はせられ近頃は御氣分も常に復したまひし由に承りまして、吾々の喜びは誠に譬ふるものがない次第で御座います。

私は妃殿下の御病氣の際に表されたる吾國民の熱誠の度の眞に根強きものあるを感じまして、蕞爾たる國を以て古來三千年上下一致能く宇内に其威を失はず、益々勃興しつゝある吾日本が決して偶然でないと云ふ事を思はざるを得ないのであります。（一記者）

女子の解放

海老名彈正

△業と運命と束縛

女子の解放といふ事は強ち現代にのみ有る叫ではない。我が日本の女子が昔から一種の束縛の苦痛を感じつゝあるは、極く幼少な頃から見聞きした所である。又此の問題に就ては屢々我が敎壇に於ても叫んで居る。併し別けて近來は新聞雜誌等に於て女子の叫が囂しく成つて居るから、默視する譯に行かぬ。今に明かに我が記憶に存して我が女子に對する深き深き感想と成つたものは、幼少な折に聞いた聲である。私の叔母が言つた中に「女子は三界に家なし」といふことが小供心に何とも云へぬ苦しき感を與へた。其時何故だと尋ねたら、叔母の言ふに、女といふ者はお嫁入をしても何時離縁せらるゝか解らぬ。今日は此處に居ても、明日は早何處かに移らねばならぬ、故に女は三界に家が無いといふのだ。其時から女は悲しい氣の毒な境界に在る者と深い感想を起した。又或る時煮物をして居る母の傍に小さい紙折樣の本が在つた。お母さん是は何ですかと開いて見たら、繪などあつて面白い、是は人の生涯を卜なふ本だ、是で人の一生の幸不幸が能く解ると言はれた。それなら私は何でせうと糺いた。お前は惡い

方ではない、若い時分には難儀をする、併し年を取ると善くなる。それではお母さんは怎うでせう、若し私が男に生れて居たら夫は偉いものだ、槍術や劍術で、日本天下に鳴り轟くのだ、しかし女子だから駄目だと言はれた。此の言に由て女は何故別な運命が有るだらうと怪まれ、何ともいへぬ同情を母に捧げた。私の故郷では女子のことを「オナゴー」と云ふ或る時下女の言ふ事を聞けば「女子には業が附き纏うて居るから仕方がない」といつて居た。此の三つが女子の運命と束縛とに關する深き印象を私の小さい心に與へた。

△只た獨りとして

　此の如く女子は業だ、運命だ、因果だと言つて斷念めてゐた。然るに現代は婦人其人の口により、其筆により、其動作により、單に臺所の小言でなく、部屋の裡での泣事でなく、公々然として婦人の解放權利が主張せらるゝ。是は大に喜ばざるを得ない事で、素より婦人の自由幸福の爲めには、吾人双手を擧げて賛成の意を表したい。婦人の幸福は單に婦人の幸福に止まらず、即て男子の幸福である人類の幸福である。

　併し乍ら女子の解放はそう易すく解決が就くものでない。年を逐うて移る思潮の流行や、或は形式なる法律の改正に由りて、此の事が解決出來るものでない。最少し深い根抵に這入つて行かねばならぬ。我が基督教は女子の解放に深き根抵を與ふる、眞の力は基督教を措いて他に覓むべからず。見よ！基督は女子に取つて無二の友であつた、而して基督に來れる婦人は解放を得た。然らば如何なる意味に於て解放を得た乎。當に考ふべき所である。基督教から見れば、最後には男子もない女子も無い、唯人なる自覺、肉體を超越した個人、只つた一人としての價値である。此處は子としてゞなく、母としてゞなく妻としてゞはない。基督は凡て是等の關係を脫却した孤獨の姿を見せ給ふた。此處に福音が存する。或

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る人がイエスの許に來て、其父の事が氣に成つて歸らうとしたとき、基督は曰く、死たる者は死者に葬らせよといたれた。又イエスの母上と兄弟達が彼を伴れ歸らうとせられた時に、「我母わが兄弟は誰ぞや……それ神の旨に從ふ者は是れわが兄弟わが姉妹わが母なり」といはれた。是は支那思想の人倫を根抵より覆へして居るが、爰に人倫を超えた離れた個人の本體が顯はれてくる。

△手枷足枷を取れ

恁麼個人主義は危險思想と思ふかも知れぬ。併し茲に基督教の眞の價値が在る。形の個人肉體の我を打破つた所に靈妙なる靈性の閃が有る。このものが直接に宇宙の大靈、活る眞の神に接する。基督は此の靈界を自覺せしめんが爲めに、吾々を引き離して只つた獨りになし給ふた。此處には最早男女の區別はない。佛教の女性觀では、女子は女子として其儘成佛することは出來ぬ。一度變性して後に初めて成佛が出來るといふ。併し基督教に於ては、男もなく女もなく、唯人として、靈性として、神の子として存する意識の外は無い。此處まで來ずして眞の解放は得られない。單に形の上の解放は復他の束縛を生む。「靈の在る所に自由あり」とは眞の解放の最後の定義である。眞に心の奥底より靈なる天地の神を父上と仰ぐ所に何の束縛が在る。又何の習俗が在る。故に神の子たる深き靈性の世界に誠の自由は得らるゝ。而も現代の女子が此處に來らずして自由を叫び解放を覓むるは、恰も猿が水中の月を捉へんとして水を掬ふが如きものである。掴まんとして一度手を入るれば、月光亂れて小波に散じ、引いて手を納むれば、眼下再び皓々たる月來る。試むれど〳〵毎に同一事のみ。幾度繰り返へすとて詮なき業である。虛榮に走せて黄金に金剛石に捕へられたる女子に何んで自由が在らう。肉情と虛飾に動く自由は靈性に於ては最大の束縛である。是れ自繩自縛である。故に自由解放を外界に求むる代りに、先づ自ら束縛を

解いて行かねばならぬ。己を束縛するは、親に非ず夫に非ず、我と我が身に自ら嵌めたる手枷足枷から先づ取り去つて行かねばならぬ。

△愛の自由と權威

基督の示された放蕩息子の喩は、誠に善く此間の消息を傳へてある。親や兄が居ては不自由だ、思ふ通りが出來ぬとて、故郷を去つて自由の世界に遊んだと思ふ束の間に、早や手も足も出ぬ破目に陷つた其の果は遂に豚飼にまで成り下り、豚の食ふ豆莢を食して滿足せねばならぬ境涯に成つた。茲に到つて初めて彼も自らに反り、自己の本體を認め、其父の家を指して歸つた。

此の喩に表はされた意味は解放を得んと焦心る人の上に最も適切に響かねばならぬ。天の父に惠まる靈性の自由が凡ての肉情迷信苛責を脱して、愛の自由と成らねばならぬ、神を愛する愛の自由！　愛に解放の鍵が在る、愛は命令より出づるに非ず、我より愛する我が心である。夫を愛し子を愛し親を愛するは我が心より出る我が特權我が自由ではないか。世に是程貴い自由なるものはない。而して此の愛、此の自由は即て奉仕である。人の爲めに事ふることである。人に仕へる此の精神が即ち終始一貫したる我が基督の崇高なる態度である。「人を使はん爲めにあらず、却つて人に使はれんが爲めに來れり」とは是れ基督の事業、基督の自由であつた。彼のラフアエルの名畫權威赫々たるマドンナは幼小の基督を懷いて居る。聖書の中にも女は子を產む事に由りて救はるとある。實に女子が其子を懷く所に眞の自由と犯すべからざる權威とが在る。愛は自由と權威である。人に奉仕する事を煩しと見る人の後には落寞たる燥れ果てたる砂漠が橫はつてゐる。

△勢力と尊敬の冠

歐洲に於ても婦人に對する正當の解釋は中世期までは考へられて居なかつた。即ちマリヤは處女とし

て基督の母である。然るに近世期に成つてはマリヤは正當に人の妻として、基督の母である。マリヤは神の右に坐すべき尊い光榮の人基督の母であるが。是れ人の妻として得た所の光榮である。故に妻としては其夫に仕へ、母としては其子に仕へる誠心の奉仕、獻身犧牲の精神が直ちに神に對する奉仕であり神より受くる榮光である。犧牲なき榮光、獻身なきの自由は人としての自由光榮ではない。我から愛する愛の自由、此處まで業は附き纏うては來ぬ。身を粉にして夫の爲め子の爲に盡す時には、最早三界に家なしといふ苦痛は意味無きものとなる。又世界の支配者基督をも產む母は、最早臺所に燻るべき運命を喞つ愚を繰り返へす必要は無い。光榮自由解放は最早女子自らの取るに委せてある。神には偏頗無し其夫を通じて世界に伸ばす勢力、其子を通して受くる尊敬は女子の冠では無い乎。而して斯る女子を妻とし母とする男子は、共に其光榮を頒ち、其幸福を享くるのである。然るに束縛の苦痛に泣く母を有し伯母を有し、姉妹を有し、妻を有し、娘を有する人に、何の幸福が有り得やう。品格なき母、知識無き妻を有するは死にまさる男子の苦痛ではないか、恥辱ではないか。爰は男子と云はず女子といはず、此の女子の解放といふ問題に對しては誠に根底ある解決に到達せねばならぬ以所である。

新刊紹介

◎**女子商業講義** 第壹年第壹號

法學博士和田垣博士を校長に嘉悦孝子女史を學監に戴ける日本女子商業學校では今回通學の便を有せざる女子の爲めに自宅修學の便法を設けて、毎月一回宛かういふ標題の講義錄を發行いたしました。修身、國漢、珠算、習字、家事、商業、帳面附方、割烹、商業地理、商業歷史、裁縫など夫々本校の先生方が懇切に筆を執つておいでで御座います。入學の規則は東京麴町區土手三番町二十一日本女子商業學校宛郵劵二錢を御送りになると直ちに送るとの事で御座います。

想苑

女子教育の標準

村田勤

△一個の自家撞着

明治の女子教育の方針は言ふ迄もなく賢母良妻主義の一語に盡きて居る。賢母良妻主義必ずしも惡いと云ふのではない、然しながら女子教育實際の施設と行動は果して此主義に應つて居るであらふか。予は此點から所謂賢母良妻主義の實際を檢考し、而して又新時代に於て發生する種々なる婦人の運動及び傾向を全然抱括し得るかどうかを考へて見たいと思ふ。

抑も賢母良妻とは如何なる事であるか、之を通俗に解すれば賢母とは教育ある母、良妻とは温良にして從順、よく夫に事ふる者と云ふ事に外ならない。誠に結構な事である、廣く解せば母妻としての職責に之れ以上を附加する事は出來ないと思はれる位である。然れども實際の有樣はどうであらふか、現代の女子教育は果して之に應ふ施設をやつておるだらふか、甚だ疑はしいのである。予は女子に對する男子の要求と女子教育の方針の上から見て二つの自家撞着の點を指摘したいと思ふ。

先達予は大學卒業生から求妻の事を依賴されたので其人の年齡に相當な一婦人をすゝめた處、其人は

十七八歳の女子が望ましいと云ふ事であつた。彼れは温良なる妻を得て、彼女から絶對的の服從を要求して居る。服從と云ふよりは寧ろ盲從を要求したいと思つたのである。夫れ故彼は自己の年齢と非常なる差違ある若い女子を望んだのだ。生中學問した女子は生意氣で言ふ通りにならぬと言ふて居る。此人の良妻と云ふのは思想も固まらぬ、唯夫の云ふ事をハイ〳〵と聞いておる樣な女子を云ふものと見ゐる教育ある大學卒業生ですら斯の通りである、況して一般男子の要求が那邊にあるかを知る事が出來ようと思ふ。男子は口を開けば一概に賢母良妻と云ふけれど、斯の如き良妻から果して賢母が出來るであらふか。現代の思潮は浸々として止むときなく洪水の如き勢を以て押し寄せて來てゐるのに、斯くの如き婦人が良妻として賢母として果して其思潮に伴つて誤りなき所置が出來るだらふか。而して男子が斯る低き心持を有しながら、尚ほ且つ女子に對して賢母良妻を要求するのは之れ明かに男子の自家撞着であると思ふ。

又之を教育の方面から見ても、眞に賢母を望むなら先づ賢妻を造る事に勉めねばならない。然れども教育當局者は高等女學校五年の修學年限が長きに失するが故に之を四年に改む可しと云ひ、或は實科高等女學校を設立して專ら技藝教育を施さんとするが如き、女子教育の程度を低くする方針が採用されて居る。斯の如き方針からは決して眞の意味に於ける賢妻は生れて來る筈がない。之れも亦教育當局者の自家撞着と云ふ可きである。

△實際を重ずる弊

近世文明の發展の跡を見れば、學理の研究の上に實驗の結果が添加して出來上つたといふ事が出來る一八七〇から一八七一にかけて行はれた獨佛戰爭は獨逸の學理が佛蘭西の實驗に勝つたのだと云つた人がある。日露戰爭で日本が大勝利を獲た。之には日清戰爭の經驗が役に立つたのだと云ふ論者があるが

其道の人に聞くと、日清戰爭當時の經驗は一として日露戰爭に役に立つたものはなかつた。日露戰爭には日清戰爭當時夢想だにしなかつた學理的研究が用ゐられたと云ふ事である。之を以て見ても如何に學理の研究といふ事が文明生活の上に必要なるものであるかゞ解らふと思ふ。夫れに實際主義を振り舞して女子敎育の程度を低級にすると云ふのは、女子をして益々愚ならしめる所以である。女子の闇愚は子孫の盲昧を意味する、斯くの如くば國家發展の進程は大に障害される事となる。夫れ故女子敎育は事情の許す限り高度にする方針をとらなければならぬ。

△子供に伴へ得ぬ母親の智識

賢母と云ふ方面から見て、斯の如き低級の女子敎育によつて養成された女子は、母として其子供に對して賢母と稱する事が出來るであらふか、女子敎育は高等女學校で澤山だと云ふ論を是認しても、高女卒業の程度では尋常六年位の子供の相手が精々の處で、中學校に入れば全然交渉を保つことはむづかしい。而も中學の三四五年或は卒業後の一年と云ふものは最も多く墮落學生が出來る年齢であるから、母親は最もよき監督者として學問の上にも思想の上にも注意に注意を重ねなければならぬ時期であるにも關らず、世間一般の母親は、此邊の智識經驗には全く缺けて居る。學問は日々に進歩して行く、十五六年前に習得した學問は、今自分の子供が習てをる者と面目を一新して居る。それに高等女學校位でうろ覺えの學問が子供の上に何にも役は立たぬ、又其位の頭腦では日進月歩の學問を始終受け入れて、曲りなりにも學問思想に應じて行くだけの素養はない、夫れ故所詮は母親の箔がはげて、子供にまで輕蔑されるといふ事になるのである。所謂賢母良妻主義によつて養成された女子が、賢母としての價値は子供の十五六歳迄に制限され、それもうつかりすると取り殘されると云ふ事は女子自身に取ても不面目な事なるのみならず、又內政を托して置く男子にとりても

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其だ不安心な事と云はねばならぬ。此點から見ても女子教育は事情の許す限り高程度のものにしなければならぬと思ふ。

△偏狭なる日本女子の趣味

日本の女子の缺點で殊に目に付くのは趣味性が極めて低く狭いと云ふ事である。一體之は改めて云ふ迄もない事であるが、三猿主義で束縛されて、何んでも出しやばる事を禁せられた、上品な奴隷的事情に置かれた結果が此處に表はれて居るのである。英米の婦人は廣汎なる趣味を有して居る事は今更云ふ迄もないが、英米婦人と比較すると日本の女子は殆んどお話にならぬ。ある家を訪問して其主人と種々の談話を交換して樂んで居る時に、偶々其夫人が座に入つて來れば、客の方では勢ひ天氣の事とか、子供の事とかに談話を限らなければならぬ苦痛が起つて來る。主客の談話に加つて行ける夫人は現今の日本で何人あるだろふと誠に心細き次第である

元々教育は趣味性の範圍を擴くするのが其主眼であるのに、現今の女子教育では益々狭くなりこそすれ、決して廣くはならない。

只に此教育のみならず、男子が妻に對する態度も亦此缺點を助長して居る傾がある。即妻を見る事玩弄物の如く、極めて淺い意味合で可愛がつて居るに過ない、眞に其人格を尊敬し生涯の最もよき侶伴として其妻を見ると云ふ者は至つて尠い。前にあげた大學卒業生のやうな考で其妻に對し、又斯の如き淺い慰籍をのみ妻から要求するから、自然妻の趣味も低くなつて仕舞ふのである。斯くの如き女子の缺點を現今の教育は果して矯正する事が出來るかどうか予は此點に於ても女子教育を更に高程度のものにしなければならぬと主張するものである。

△賢母良妻主義に包括し得ぬ女子

賢母良妻主義もいゝが、妻とも母ともならぬ女子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が澤山あるが、此主義では此等の女子を包括する事は出來ぬ。女子は結婚す可きが原則だとしても、文明の進歩と共に種々なる原因よりして、女子が獨身生活を餘儀なくせしめらるゝ事情が出來て來るし、又は高尙な目的或は職業の爲めに勢ひ結婚を避けなければならぬ場合が出來て來る。教育家、音樂家又は看護婦の如きは獨身を便利とする事情が伴ふやうである。尙又天才肌の女子は結婚によつて其才能の發輝を訌害されるよりか、天與の才を充分に發揮した方が社會の爲めになる事がある。現今の社會の如く女子を玩弄視する時代にあつては假ろ斯の如き非凡なる女子の出現した方が大に女子其者の爲に利益である。野村望東尼、村雲尼公、樋口一葉の如きは賢母良妻以上の仕事をやつた人々である、夫れ故女子の高尙なる目的の爲めには獨身主義を是認しなければならぬ、然るに世間では獨身者を見て一種侮蔑の色を表はし、女子自身も何等か不幸な事情にでも居るかの樣に思ふのは大なる誤である。斯くの如く時代は獨身者を是認しなければならぬ過程に進みつゝある間に、所謂賢母良妻主義は決して時代精神の全般を掩ふ處のものでない、尙ほ之を擴くし高くする必要がある。（婦人講演會筆記文責在記者）

見えぬ力

和田孤峰

上

赤城山の麓を去る六里、神流川を東に見て烏川を北に負ふた小さな村がある。戸數は昨年迄六十何戸とかあつたそうだが、大洪水の爲に大半流されて今は僅に荒涼たる砂原が僅に昔を語つて居る。洪水當時の慘狀は見ぬ我々の知る由もないが、話に聞いただけでも慘鼻の極である。家は勿論の事、屋敷の土

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が二尺も三尺も流されて一面は滿々たる大海、屋根　も知れず流されて行く者、全く此世の物とは思はれ

につかまつて救を喚ぶ者、木の枝に縋る者、何處と　ない有樣。翌月になると、水の引いた後の桑の木な

どにせかれて殘つた死骸が其處此處から出た。子を失ふ者、親に離るゝ者などが俄に家に離れて當もなく、うろ／＼して居る。田畠は二尺も三尺も砂が積もつて、何處が誰れの地所やら分らなくなる。持ち物とては手拭一筋も無い、これが一夜の變化とは誰が豫想しやう。彼等は餘りの事に涙も出ず、唯茫然として居つたと云ふ。當時の狀を尋ぬるものがあれば、彼等は砂地を指し乍ら、感慨に泣くのである。

けれども新綠滴る今日此頃、桑園を縫うて步み行けば、風に送らるゝ讃美歌の聲が耳の根に通ふ。歌の主は誰れ、山家に珍しくもと、聲する方を見れば、村の若き少女が三々五々、桑を摘んで居るのを見るであらう。地は如斯慘なるに妙じくも淸き御歌をと思へば坐ろにゆかしき心地がする。試に路を折れて村の某を訪れ、故を尋ぬれば、それも宜。泣きつゝも御旨を喜ぶ深き根があるのである。主の道を傳へたる者は誰？

下

今からは四五年になるが、故人で某と云ふ人があつた。彼はこれと云ふ名のある人ではないが、見えない所に善事を爲して知らず／＼感化を及ぼした隠れたるクリスチャンであつた。彼は學者でも無く、議論家でもなく、唯の百姓である。初めは際立つた事も無つたが、信仰に這入つてから次第／＼に光を增して、晩年の如きは誠に美しく、神の子と云ふ面影がほの見えた。死んだのが四十七、未だ働き盛りであつたが腦の爲にほんの少しの間に眠られた。性質が溫厚で何時でもにこ／＼して居て別に世辭も云はなかつたが逢へば何とも云はれぬ好い氣持がする人であつたと云ふ。

彼の成した事は人目を驚かす樣な事はないが、其德に浴する人には深く滲みた。或時の事である。村のさる道を通つて某の家の屋根が壞れて居るのを見て貧しい爲に雨さへ凌げぬのを氣の毒に思つたのであらう。直に材木屋へ行つて必要な物を買ひ入れて某の家迄來た。而して「〇〇さん屋根が壞れた樣だが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

普請しちや怎うだね」と云ふと、某は「旦那屋根所じやありません、今日に追はれてるんですから」。「直したらいゝだらう。板は己の所にあるよ、何あ―に實は板を借金の形に押し付けられて困つて居るんだが金は怎うでも好いから、何なら使つて呉れないか」と云ふ樣な譯で直させる。

そうかと思ふと、養蠶の時期には乾度米の飯と麥飯を炊いて置いて、雇人には米の飯を食べさせる。けれど自分達は麥のを食べる。彼は骨折る者は食を好くしなければならぬ。それを大抵の人は骨折らない自分達だけ甘い物を食つて、骨折る者にはまづい物を喰はせる。それは間違つて居る。信者は實行に於て何か違つた所が無ければならないと云ふ論を堅く信じて自ら行つたとの事である。而かも自分は雇人の先に立つて寧ろ餘計働いたのでもる。又こんな話がある。或牧師が其家の開け放しで時々薪など持つて行かれると云ふ話を聞いて、屋敷内を少し嚴重にしたら宜いでせうと勸めた。所が彼は眞面目になつて「困れば此方から持つて行つてやり度いと思ひますが、それが能く分らないで居るのですから、別にかまひはしません」。之には牧師も一言も無かつたと云ふ事である。彼は社會主義の口眞似などする男ではなかつた。平日はよし、大きく出ても、いざと云ふ時は眞赤になつて腹を立てるのが人情であるに彼は鷹揚にして一向頓着をせなかつたのである。

一體に恁う云ふ風であるから、知らず〳〵基督教の感化が及んだ。けれども口の傳道はしなかつた。慈善とか德行とか云ふ事も彼には當り前と考へられた樣に見えた。大抵の人なら何か施こしでもすると、其後から傳道をしたがるのだが、彼は然う云ふ事はしなかつた。併し彼の一言は外の人の十言にも優つて力があつたであらう。議員などを選擧するにも彼が呑み込めば近郷五六ケ村は勸めずして定まつたと云ふ話である。

彼死して今は無い。けれども彼の家は睦じく彼の村は水には遭つたが猶平和を保つて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

おきのさん

平山訓子

手紙が來た、おきのさんから來た、一年半振である、親鳥が巢立つひな鳥を氣遣ふような心持でおきのさんを横濱に送つたのは一昨年の秋であつた、おきのさんは別れる時「着いた報らせは直ぐに上げる其先きは愈々これと將來の見極めがついてから」と言つた。

三十日計り經つた、かさこそと木の葉の落つる音が淋しい夕べ、初めて着いた報らせが來た、それから今度が二度目である。

おきのさんを思ふても、不思儀に淚は出なかつたおきのさんの半生は、或は淚に價する程氣の毒なものであつたかと思ふ。けれども、唯氣の毒とシーンと胸をつかれる思ひがする計りで泣く氣にはなれなかつた。何故かと疑つたこともない、今氣をつけて思ふと、おきのさんは偉い人だ、如何なる境遇にも負けないで行く人だ、強い人だ、といふ感じが私の心に根をおろして居たからかと思ふ。

おきのさんは或る漁村に生れた。十二歳ばかりの時に其漁村から卒先して女學校に入つた。つい十里計りを離れた城下の女學校である。二年計りを過すとふとした事から父親が亡れて退かねばならぬことになつた。今の女學生と違つて其頃の女學生は、食慾にもました智識慾に驅られて、親々には反對されながら、忍びしのんで學問をして居たのであるからおきのさんが學校を退いて其知識慾を斷たれた時の苦痛は一通りでなかつた。けれどもおきのさんは母親にさとされてから、惡い顏もせず默つて退いた。

其後二年計りは杳として消息を知る者はなかつた此間おきのさんは、父亡き後の墮氣放縱に流れた家飼ひの漁夫らを率ゐながら、十五計りの小娘の身に

波荒い艀舟にも出たといふ。

三年目におきのさんは突然、師範學校に入つたといつて先きの學び屋を訪ふた、其時おきのさんは、杏樹返しに白い丈長をかけてゐた、其れが水々となづかしかつたのを私は覺えて居るつきり、其後の消息を知らなかつた。

◦　◦　◦　◦　◦

十年目か、十一年目であつたかと思ふ、其の次ぎに逢つたのは、已う其時は御互ひに子供ではなかつた。晴々とした昔に似ず著しく影が薄いおきのさんの姿を、私は年のせいかと思つた。三日計り經つた夜の月明りにおきのさんは私の宅を訪ねて、哀れな其半生を語つた。おきのさんは私が忘れて居た間に師範を出て、更に上の師範に進んで、約婚が出來て性を變へて、其人はすぐに亞米利加に渡つて、おきのさんも學校を出るとすぐ或る邊避に義務年限を果して、そのうちに幾度渡米の催促が來た、けれども家庭の事情はおきのさんを許さなかつた。おきのさんは身を約めて貯蓄をした。漸々渡航の用意が出來ると、今度は向ふから來るなと言つて來た、餘儀なき理由も書き添へてあつた、親々は男の心を疑つた。おきのさんは動かなかつた。けれども斯うして離れて居るうちには、其處には自づと堀や溝が生じて來る。おきのさんと其人の間も、別れて十年、流石に手紙も稀れ〳〵になれば、今は親々さへ二人に冷淡になつて、おきのさんを遣らないで置こうと云ふことになつた。一つはおきのさんが暮した餘りを貢ぐからでもあつたらう、又一つはさうして置けば向ふより歸つて來るといふ空賴みもあつたらうけれども向ふでは事業の成功を見るまでは飽くまでも歸らぬといふ、それやこれやで、一時は遂に離縁話も持ち上らうとしたが、動かぬおきのさんの氣象一つに危く喰ひ止まつた。おきのさんは何方附かずの斯うした果敢い生活に青春を過してしまつたのである。夜は冷たく二時を打つた。

寢がけにおきのさんは、「でも斯うした境涯でも、

私は些つとも詰らないとは思はぬ、もつと好い、幸福な境遇に代へてやらうと人が言つても、矢つ張り私は嫌な氣がする、執着が深いんでせう」

私は言つた「そこが人生の貴い意味の深い處ではないのでせうか、それで此後は何しなさる積り」

「他の多くの友達も、第一親までが、何の不自由もなくかうして暮らして行けるのだもの、何を苦しんで今更行く、或はもう別れて了つて後の計を立てたがよくはないか、など云ふ人もある、みな男子の品行を疑つて居るのですよ、尤も手紙も已う一年計りは來ないのですからね、だけど私の滿足は其處にはない、何と言つても向ふの人を疑ふことは出來ぬよしや向ふが間違つて居ても、私は行く丈けの道を行き度いと思ふのだもの、何うしたら好んだか私には分らない……」

私は言つた「あなたに其れ丈けの信があつたら、お出なさい、行かねばあなたの不幸ばかりか、向ふにも迷惑がかゝる、自ら進んで行つて、確然と左右

を附けるより今は道がない、お出ない、思ひ切つて行つたが道ではないのですか」

秋が立つた、おきのさんはある露しげき朝、愈々固い決心をしたと私に告げた、けれども、行くには親々の反對、友人の危懼、金錢の問題、猶種々の障害はおきのさんの前に山ほど積んであつた。春が來て又秋に返つた。此間おきのさんは何れ程の苦心をしたかしれぬ。けれども苦心の甲斐はあつた、おきのさんは愈々渡航することになつて知人のたれかれに告別した、いざとなると、内心私さへ殆んど當て度ないおきのさんの前途を危ぶまずに居られなかつた。けれどもおきのさんは割に活き〳〵して、「行く丈けの道を行き詰つた時、其時、右にも左にも快よく折れませう、それからが自分の本當の生涯よ」、と言つて立つた。

程經て安着の報らせが來た。そしてそれには、安神の二字が見えた。私はやつと胸なでおろした。けれども未だ本當の安神をするには早かつた。若しや

と思ふと、私自身が、おきのさんを突き放した氣がして堪らないこともあつた、けれども不思議に涙は出なかつた。

第二の飛信、見極めが着かねばと言つた、其れが今着いたのである、私の胸は躍らずに居られぬ。

「只今良人と共に或る目的の爲めに並ならぬ勞働を致し居り候得共、世に我身程幸多き者あらじと思ひ居る妾を祝し玉はり度候、過る幾年かのもの學びも此一年の修業にはかなふまじく、何れ三五年の後にかへりて手慣れの洋食を君にすゝむるが此上なき樂しみと二人は申し暮らしをり候」

見る〳〵、不思議にも、私の眼には涙が湧いて、それが持ち切れずに、ほろ〳〵と紙の上に落ちた。母は見咎めて、「何か不幸なことでもあつたのかい」ときいた。「いゝえ、嬉し涙ですよ、これ讀んで下さい」と渡すと、よみ行くうちに、咎めた母の眼にも、不思議に涙が浮んだ。やがてして母は晴々と、「まごゝろのちから」と呼んで、忘れて居た朝茶を飲んだ。

日誌の中より

雛菊

○

花の盛りの或お天氣の晴やかな一日、私は生徒と共に舊城内へお花見に行きました。お年召した裁縫の先生が「花はきれいだけれど盛りが短い、私は春の花を見る度にはかない思ひをする……」とつくく嘆じておいでなさるのをきいて、私は色々の事を思ひました。成程花の時は短い、今日盛りと見る花も、明日は早や散りこぼれて居る。やがて青葉の世となり落葉の時が來る。けれど其間には生命が續いて居る。人生ははかない、夢の樣だ、けれど生命は

永遠より永遠に續いて居る……

お堀の水は昔ながらの姿をのこして、青々と漣を湛へて居る。花は美しい影をうつしてすまして居る廣々としたお庭、高いお天守のあと、私は封建時代を思ひ浮べつゝ歸つて來ました。

○

「あゝ私は何故教育者にならうなんて志を立てたのだらう、身の程知らぬ望みとは、ほんとに私の事だ」

私は時々こんな事を思つて悲觀する事があります「省れば何物も有たない自分ではないか、三年や五年學びの道を辿つたからと云つて何になつて居やう……」

斯う思ひかけると、もう〳〵堪へられなくなつて職業も何もあつたものではない、あれも是も投げすてゝ、いつそ逃げ出したいと云ふ樣な思ひをするのです。こんな時私は聖書を讀むか、お祈りをするかでなくば牧師の御宅にかけつけるかするのが常なのです。さうすれば私は生れ變つた人の樣になつてよく落ちつくことが出來ます。

どんな難しい問題でも、又どんな苦しい場合でも神は何等かの方法を以て、よきさばきをつけて下さるものです。

○

人間は淺はかなもので、少しでも賞められると直に得意になり、少し苦い試煉にでも遭へば、つまらぬ愚痴をこぼしたり世をかこつたり致します。けれど人は賞められる時が最も戒心すべき時で、試煉に遭ふ時が最も貴い時ではないでせうか、苦しみに遭ふのは丁度玉がみがきにかけられる樣なもので、其度毎に人は一段と光澤を增すものだと、ありふれた事ながら私は此頃切に感ずるので御座います。

○

雨がしと〳〵と降つて居る、春雨と云はうか――されどのどかに濺ぐとも見えぬ、五月雨と云ふにはまだ早い。雨はじめ〳〵と降つて居る。私は今お堀の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

側を通つて居るのです。風はない、木の枝一つゆるがうともせぬ、水には一面に小さい輪がすき間なく描かれて、丁度漣の樣にも見える、靜だ、實に靜だ、石垣は雨にぬれて黑くなつて居る松の色も杉の色も黑ずんで見える。私は二年の間日曜には必ず此處を往來して來た。雨の日も

風の日も雪の橫樣に吹きつける日も、私は缺かさずにかよつた敎會に行くには必ず通る道なのである。私は敎會に遠ざかる樣になるのは墮落の一歩だと思つて居る。

天氣の好い日は遙か東の方に高い白い山が聳えて居るのが氣高く見ゐる。時には新月淡くお堀の水にかげを

やどして居る事もある、雪の日の眺めは一としほだが、私はそれよりも雨の日の此處の景色が一番好きである。今日も喜びの胸を抱いて會堂へと急いで居る――

○

○○科の生徒が此四月から急に大人らしくなつた樣に見える。あながち肩上げをおろしたせい許りでもない樣だ、つひ此間迄ボール遊び等を喜んで、キャツ／＼騷いで居たものが、それもいやだと云ひ出す樣になつた、凡ての樣子が餘程變つて來た。少女の十六七は最も注意を要する危險期だときいて居たが、此頃切に此事を感ずる樣になつた。大事の娘御をあづかつて居るにつけても、娘もつ母親の苦心が察せられる。

○

此頃新制第三學年用高等小學校修身書については新聞にも雜誌にも隨分やかましく云はれて居る樣ですが、何もわからぬ私共にさへ、敎へるのにとんと

氣乘が致しませぬ。忠君だの愛國だの祖先崇拜だのと、頭からつめこまうとしても、それは到底出來る事ではありますまい、之によつて少年少女の柔い頭は大にそこねられはしますまいか、私は今此書物を用ふるに當つて頗る苦心して居ます。

一體に今の修身敎科書は乾燥無味の樣です、よんで見ると高野豆腐のカス／＼をかむ樣な心持がいたします。一度手にしても二度と開いて見樣といふ心持ちが起りません、之れで頭からたゝきつけられる生徒は可哀想なものだ、もつと含蓄のある讀めば讀む程味へば味ふ程甘味の出る樣に敎訓の味へる樣に作られぬものかしら？とよく思ふ事です。

修身科等は理窟で「せざるべからず」とつめこむよりも、もつと深い所に這入つて行かねば效果はないと思ひます。

かをる香をよそふるよりは郭公
聞かばやおなじ聲やしたると　（和泉式部）

覺え帳より

はくや

△巴里のアカデミー、オブ、サイアンスで或專門家の爲した講演に依れば、男女の健不健は足で判斷することが出來るさうだ。それが男と女とは反對だから面白い。健全な男子は大きな足を持ち健全な婦人は小さな足を持つ。小さな足の男子と大きな足の婦人は多くは病的だ、統計に依ると健全な男子百人の中で足の小さな者は僅か十八人しか居なかつた。病的な男子百人の中では大きな足を持つて居る者は二十四人しか居なかつた。處が婦人は全くこれと反對で健全な百人の中で大きな足は僅か二十三人、病的な狂婦百人の中では細い足が十八人しか無かつたと。成程これには幾分の眞理があらう。太い大根のやうな足、細いしなやかな足と恁う考へた丈けでも成程と頷かれる。御婦人は須らくおみ足を細める工夫をお凝らし遊ばすが宜い。

△英國醫學雜誌の一記者は遺傳の定義を述べて、男子は母親の特質を遺傳し女子はその父親の特質を遺傳するものだ。その證據には大文豪大詩人大畫工の子息にはその父親の遺鉢を傳ふるに足る者が尠なく却つてその娘に天才が生れるものだと云つて居る。さうすると偉い婦人が馬鹿な男子と結婚すれば、その間に生れた息子は偉くて、娘は馬鹿といふことになるが、我邦國の前途の爲には愈々賢母良妻——といふと語弊があるから思ひ切つて新婦人と云つて置く——の養成が急務と成つて來た。

△倫敦では近頃女事務員が大分不評判で、男子にお株を奪はれるといふことだが、之れに就て「ツルース」の女記者が云つて居るのに、——安つぽい靴、眼細工の靴下、薄つ片なブルーズ、引摺るやうなスカート、惡い辨當を食つて、茶ばかりガブ／＼飲む、些つとしたことですぐ氣絶し、病氣と云ふてはよく缺勤する。恁ういふやうな事で自然男子のお株を奪はれるのだと——。尤も恁んな連中ばかりでも

あるまいが、何しろ女權擴張問題が大分八釜敷なつて居る今日に恁んな事では聊か心細い。日本では女事務員が大分評判が宜いやうだが、兎に角しつかりした覺悟を抱いて居て貰はんければならぬ。

△二三週間前のことだが、クロイドンで生後僅か半ケ月の赤坊が飼猫に殺されたといふ大事件が起り、母親が裁判所に召喚せられて審問せられたが、母親の申立に依れば、眞夜中にふと眼を醒まして見ると枕許に飼猫が蹲つて居るので追ひ除けたが、その時はまだ赤坊には別狀が無かつたやうだ。程經て赤坊のお腹に痕があるのを見附けて大騒ぎをしたがどうみても猫の爪で引掻いた跡らしい。早速手當をしたが何分出血が多く、赤坊の命は到頭助からなかつたと。猫といふ奴は獰惡な相を備へて居て隨分無氣味な者で古來日本にも猫が人を噛殺して人間に化けて居たなどといふやうな話が多い。シカシ無氣味なだけそれだけミステックなもので、第一開いたりすぼんだりする星眸からしていかにも神秘な影が漂つて

居るではないか。

△蝶のラヴメーキングといふ題でデキゼイ氏の興味ある講演が或新聞に載つて居たが、それに依ると雄蝶の兩翅の下にはかぐはしい香を貯へて居る部分があつて雌蝶をアトラクトする手段に供するものださうだ。それでよく白い小蝶が二つ互に寄りつもつれつ咲亂れた花の間を飛び行くことがあるが、あれは雄蝶がハタ〳〵と兩の翅を搖がし乍ら雌蝶をアトラクトするために香ぐわしき匂をあたりに撒き散らすのださうだつまり人間が花束なんかを贈つたりするのと同じやうな譯だらうと云つて居る。

△野蠻時代ではハウ、ツー、キル、(如何にして殺すべきか)といふのが問題だつたが、文明時代に成るに從つて、ハウ、ツー、リヴ、(如何にして生くべきか)といふ事が問題と成つた。つまり外面に向つて居た人間の思索が内面に向つて來たのだ、この内面に向へる思索が更に深酷を加へると、ハウ、ツーリヴは更にハウ、ツー、ダイ(如何にして死すべきか)と變はらなければならぬ。

人のうつくし

野口せい子

○冬物のよごれを洗ふ初夏の朝たすきの女人のうつくし

○花かざし我もして見き三十路行く春の名殘りの山吹の花

○たはむれに眼に針したき夕かな涙の途のここに開くやと

○一すぢの道の外には出もあへず思ひのみこそほしひまゝなれ

○唄ひつゝ今日も糸繰るむすめあり生くるを知らず死するを知らず

○初夏の風はかほりぬ水色の傘して行けるセルの袂に

○思ひ倦み雲の白きを山に追ひ五月の晝をゆめみてありき

○思ふまゝ歌出づる日と思ふまゝ泣かるゝ日とは何れなるべき

○買はれ來し撚糸屋の年期十歳の子が二十歳迄はと云ふが悲しき

○繪筆のせて歸るを知らず淡路島島のほとりの名なき小島に

○友一人海に吸はれて歸り來ず我山住みを恨み泣く哉

○病いえて歸りし君は銅色に染まりてありときくがうれしき

家庭

家庭に對する希望

本誌はこれ迄本欄に於て種々なる問題を提供して、家庭經營の根本の思想や實行の方面に御參考になる樣な事をと心がけてまゐりました積で御座いきす。此度は家庭に對する希望といふ題で、高等女學校卒業程度の若い姉妹方に限つて御意見を伺ふ事に致しました。之は新時代の青年子女はどんな事を考へどんな事を望んで居るかと云ふ事を明かにして、「新人」と「舊人」との橋渡しをして見たいと思ふたからであります。「若い者の心持は迚もお母さん達には分らない」と嘆ずる方々のお考を、お母さん方の御覽に入れ、又之によりてお母さん方の御意見を伺ふ事が出來ましたら、時節柄非常に有益な事だと思ひます。吾等の乞を容れて此問題に對して御回答下すつた方々は悉く未婚の人でありまして、現に高等教育を受けつゝある人又は教鞭をとりて居らるゝ方々であります。其御姓名と校名とは今之を發表する譯にはまゐりませんけれど何れも現在の日本では最高の教育を受け且つ卒へた方々であると云ふ事を申上げて置きます、終りに吾等は吾等の願ひを許して答案を集めて下すつた先生方ゝ直接回答して下すつた方々に對して厚く御禮を申して置きます。掲載の順序は全く編輯の都合によつたものでありますが、六號を交へたり、又は加へたり削つたり致しました處がありますが、之れも編輯の都合で御座いますから、惡しからず御諒承を願ひます。

海老名婦人の「現代婦人の一面」は此問題と連關した記事で御座いますから、是非御精讀を願ひたいと思ひます。（記者）

先づ退きて反省すべし

福井みどり

御手紙拜見致しました。何か物せよとの御仰せ、而も題目迄御示し下さいましたけれど、日頃ぼんやりの私、未だ家庭といふ事さへ本氣に考へた事は御座いませす、從つて家庭に對する希望も理想も眞面目に描き出した事は御座いませんので、何と御答へ

申して宜しいやら、實は當惑したので御座います。
　私は曾て「自分の様な不完全な者が、どうして人の妻となり、子の母となり、人生慰安の源たる樂園の主宰者となる事が出來やう」…等と考へた事もありましたが、其後又「こんな事を考へて居ては、何時迄も果てしの無い事で、人は誰しも之で完全だと思ふ迄には至らぬものではなからうか、不充分ながらも相當の年齢に達すれば、男女各々配偶者を得て互に相倚り相助け長短相分ち相補つて、漸次完全に近づくべく、努力すべきものではないでせうか」…と思ひ返した事も御座います。人は男女の別を問はず、夫となり妻となつてこそ、ほんとに其の長所美點を發揮し、本分を完うし得られるものではないでせうか、松にかゝれる藤、梢にまつはる葛、それは互にたよりたよられつゝ、それ〳〵美化せられて居るのではありませんか。殊に女は妻となり母とならねば女らしい女となり得るものでないとは、日頃見聞する多くの事實によつて痛切に感ずる所で御座います、ですから私は人は萬々止を得ざる事情のない限り、當然結婚すべきものだと思つて居ります。
　結婚につきましては、配偶者の選擇は年若い青年男女の自由に任すべきものでないと思ひますが、全く本人の意志も要求も容れず、父母の思ふがまゝに抑壓しやうとするのは無法だと存じます。殊に相當の教育も受け、思慮あり分別ある子女が、一時の情に驅られたのでなく、眞に尊敬し親愛するに足る人格を認めて、一旦思ひ定めた様な場合には、父母は大に酌量すべきであらうと思ひます。此時當人の眼中には富貴も名譽も地位も更にないので、我が心を動かしたものは、赤裸々の人そのものにあるのではないでせうか。父母は徒らに世間體や外聞にのみ腐心する事なく、眞に其子の胸中を察して、ほんとうの幸福を計らるべきものかと思ひます。人は第三者の眼に如何様に映りませうとも、自ら滿足し安心する事が出來なかつたならば、たとへ財あり位貴くとも幸福だとは申されませぬ。時に大なる苦痛艱難を

眼前に控へながら、自ら進んで其衝に當らんとし、之を以て愛の滿足を得、心の悦びとする事のあるもので御座います。

女は社會に出でゝ活動するよりも、入りて家庭を主宰すべきものです。女子は所謂椽の下の力持ちをなす所に貴い價値あるものではないでせうか。廣く世の名譽賞贊を得ずとも、夫の優しきいたはりの一言に、凡ての勞苦を打ち忘れ得る境遇を望ましく存じます、こゝに美しき犧牲の精神も湧き出るのではないでせうか。

家庭に於ける女子の位置とか權利とか云ふ事は、女子自らの主張すべきものではなくて、女子其ものゝ價値如何によりて定るものかと存じます。若し是等を主張せんとする人あらば、宜しく先づ退きて靜かに自己を反省すべきものだと思ひます。

先日女學校の教科書中に

家庭は世間より獨立せる一小天地にしてこゝには野心なく競爭なく貪慾なくまた氣兼もなく只誠實あり同情あり親切あり休息あり安樂ありて和氣靄々永へに春の如し、體疲れ心痛めるものも足一度この樂園に入らば今日の苦勞は忽ち忘れられて元氣頓に回復し明日は社會の競爭場裏に驅馳せんとの新しき勇氣を振ひ起すに至らん然るに若し此樂しかるべき家庭にして樂しからず蕭殺の氣迫り來る秋の荒野の如くなりさせば男子の勢力に及ぼす影響や如何なるべき。然り而して家庭生活を樂しくも詫しくもする鍵はをさめられて主婦の掌中にあるなり……

とあるのを見ました。又家庭は最も良き教育所なる事を思ひます時、權利とか義務とか云ふ事を女として申すことでないかと思ふので御座います。

一家の主人は威嚴を備へ、主婦は慈愛に富み、一家嚴肅にして而も冷からず、春の靜に暖く而も其間に身のひきしまる樣な空氣のながれて居る家庭が望ましいと存じます。女子たるものゝ責また大なるものでは御座いませんか。

自己が中心

東京　若葉

我國の教育は古來家族主義であつた、家と云ふ者があつてそこに個人もある。それであるから或場合

には家の爲に個人の犠牲になる事がある。併し家が本位であるから何とも思はぬ。現在の我々の父母及び其他の老人達は皆この敎育を受けて來たのであるしかるに現代の敎育は之と全く反對で自己と云ふ者が中心で、其他の者は第二位になつて居る。卽ち根本が異つて居るのである。各その異つたものを主張するから勢ひ衝突は免れられぬ。老人の云ふ事は吾々にとつては無理になる。古い人達が自分達の今迄の經驗を話して吳れて吾々がやつて行かうと云ふ事の參考としてくれるのは嬉しい事であるが「かくせよ」と頭から命令されるのは厭である。然るに多くの家庭では命令が多い樣だ。勿論我々の如き若年の者は何事にも無經驗である。それが一生懸命に考へ付いたことならば初めは何も云はずに遣らせて見るがよいと思ふ。多くは失敗に終るであらう。さうすれば自然と今度は經驗ある者の說を求めるやうになる。餘り初めから轉ばぬ先に杖をと云ふ事は私はきらひである。

次に我國の家庭は古くは親子關係が根本であつた而して夫婦關係は第二位の者であつたが近來はこれも反對の傾向である。卽ち從來の親子と云ふ縱の關係よりも夫婦と云ふ橫の關係が强くなつた。西洋思想の入つた結果であらう。しかるに多くの古い人々は今猶從來の關係を第一位にしやうとして居る。否それを當然の事と信じて若き人々に接するのである之に對しても若き人々は不平を有するのであらう。

父母たる自覺を充分に持つて頂きたい

靑山女學院　山本たけ子

總てのものは悉く、是れを觀察する人によつて其解釋を異に致します。見る人の思想如何によつて時に大さなり時に小さなるでせう。小人は僅かに事物の一面若しくは其一局部を見て猶ほ且つ其物の全部を說きますが而かも其の全部なるものが僅に其の一部又は一局部に止まつて居るのを知りません。これは其全部を窺ひ知り得ないので誠に悲しい事でございます。家庭に對する希望は

何かさいふ御尋れに對して第一に私は此悲しまるべきものであるさいふ事を申し上げ度い。生れて二十年、夜も晝も兩親の許に居りまして育つて居りますので見聞もなく、勿論經驗も有たず、從つて御參考になり得る定見は一つも持つて居りません。私の眼に映つて居る所謂家庭さいふものは自分の起臥して居る處さ親戚や友人の家庭位で極く〳〵範圍の狹いものでございます。加之幸か不幸か私は極く平凡な―平和さも申されますが―家庭に育つて居ますので、甚だしい缺陷を其中に見出しもせず、從つて其れを補ふべき多くの要求も持たぬ次第でございます。よし要求をしましたさしても其れは私の極く小さい經驗に於けるものでなべての家庭に對するものではございますまい。長れ多う御座いますが上は皇族樣方より下は九尺二間の裏長屋に至りますまで、私共の間には階級があつて其れ〳〵其狀態も異なつて居りますので、家庭に對する要求の標準を置く處に困りますが、それさなく思うまゝに申し上げてみませう。

一、家庭といふ日本語は角ばつたごろ〳〵したもので圓滿なるべき内容に相應しからぬもの、私は英語のホームといふ言葉を用ひ度うございます、丸みのある、やさしい、溫かい言葉ではございませんか。

一、父と母とはホームの二柱の神、充分に其權威を持して頂き度い。

一、父母が御互に相信じ、相敬するといふ點に於て聊かならず物足りません。殊に父は母に對して充分の愛敬を拂つて頂き度い。

一、現代女學生に良妻賢母たれといつも〳〵敎へて頂くのは、誠に感謝に堪へませんが、敎へて下さる方々に良妻賢母であつて頂き度い。良夫賢父であつて頂き度い。

一、父であり母であるといふ充分の自覺を持つて頂き度い。然らば其責任と特權とは相共に來り、萬枝萬葉自ら解決のつく事と存じます。親は其子に先だつものではございますまいか。

　親子の間の聖き愛の火が充分に輝きます時は、よし世の波風が個人主義を叫ばうと、自由開放を訴へやうと、ホームは永遠に靜かに溫かに固く立ち得ると信じます。人間としての出發點は申す迄もなくそのホームです。此の出發點が旅路の一番大切なところ、立派なる社會の基礎、立派なる個人の養成所で御座いませう。

　私は桃太郎の昔噺が大好きでございます。斯樣な

ものは私の理想のホームでございます。聞く毎に考へます毎に、其奥に言ひがたき量りしれぬ味が滲つて居るではございませんか。

老人に對する要求

東京 かほる

時代と共に進歩して行くとこと。

此れは御老人に對して無理な要求かと存じますが之れには內容が二つ御座います。

一、靑年の心中を良く理解すること。

二、過去をくど／＼しく語らぬこと。

尙ほ細かく別ければ分れますが先づ此の二つ位で御座います。

若いものが老人の心を解し其の要求に應じ又其心にかなう樣に豆々しく快く立ち働き命令を全ふするのは必然のことで御座いまして私共の大なる責任と義務で御座いますが一方から又考へると老人が若いものゝ心を解して双方から勉めつゝくしつして互に調和し心を知り合つて長者よりの命や教は良く聞き又學び、又若い者が云ふことでも改良すべき所又事柄は或る範圍迄はすると云ふ樣にして行きますれば從て家庭の不和も起らないかと存じます又、滿足に餘命を送ることも出來るかと存じます。

次に過去許りくど／＼敷く語つて居た時には、自分はだん／＼と老い行くのみならず、一家族をも退步さして行き、丁度つばめが巢を作る樣初めから終りまで每年々々同じこと許りくりかへして少しの進步も御座いません樣に又池の中に蛙の樣に世の中の事が少しも解らなくなります。外は幾ら進歩しても依然と昔の儘で居ると云ふ樣になりますから、自然と其の所に不調和が起ります又少しも社會と伴はないと云ふ樣では折角文明の世に生れて來た甲斐もなく人間＝活きた人間現在に生活する處の人間にもなれないと存じます。若も此の二つの點が出來ましたら如何に御老人の方は若返り何時迄も年を取らず家

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

庭も時代に合つた調和した圓滿な家庭が出來るかと存じます。

新らしい女より世の親達へ

東京　波子

△親の懐から良人の懐に、老いては我が子の養をうけて、絶えず寄生木のやうに又蔓草のやうに、他にたより他にすがつて、其生を終へた今迄の女の運命を、儚いと悟つた今日の新らしい女は最早到底從來の制度の下に絶對の服從をなす事は出來ないのである。

△敎育は日々女子の自覺をうながしてゐる、女子は刻々社會に於ける夫れ自らの責任に目醒めつゝある今迄の儘の狀態で社會があり得るものであるならば女子も目さめる必要はない。女子の自覺は社會の要求の結果餘儀なく生じたものである。

△新らしい女は最早や從來の姑息な愛の中に安ずる事は出來ない、社會がそれを許さない。往く〳〵其の子の前に絶大の權力を失はんとする世の親達よ、新らしい女は今御身に一言する。御身が其の子の不從順を責める前に、先づ一度自からの責任に就いて靜かに反省して貰ひたい。

△親を敬ひ得ぬ子は、子を從はせ得ぬ親と、不幸の度に於て何れであらうか。

机上の空論

東京　何の實驗もなき一女

一、財產を與ふることを廢し財產をつくるを得る技量を其子女に與ふることを望む。

一、老人の長所は大に認むれども隱居的精神を除去せられ死するまで働き學び子女の扶養を期待することを止めたきものなり。

一、問題外ならんも、老人否子女を有する親等に要求するよりも將さに嫁せんとする青年男女特に女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子に望む、理想的の伴侶を得んとするは可なりされど自らが果して他に期待する程の人物たるか否を反省するに嚴なること、之れを緩にしても間に合ふは社會又男子が未だ自己の能力を誇つて女子の發達の必要を感ずる程に進歩せざることを證す今日動もすれば女子の無能を對岸の火災視するのみならず女子の進歩は男子たるものの不名譽なるが如き態度あるが如し、男子に望む女子が今日の狀態にては間に合はざる程に男子の進歩あらんことを、今日の青年なども女子に期待する所の低き餘りになさけなき感あり。

一、思想の變化甚しき我が國の近年四五十年間に於て否極めて最近に於ても青年男女を有する兩親の多くは單にある事實と過去の舊き定規とを以て事の判斷餘りに早計に失する者あり、簡單に斷定し過ぎる傾きなきかと思ふ、青年男女の心狀其思想を誤りなく解し且つ指導し得らるゝやう老いざらんことを望む、更らに老いたる人等は所謂老婆心を止めて信賴し讓歩せられたきものなり。

宗教心の缺乏と解放主義の無意義

東京 岡崎小文

笑みてもよし。泣きてもよし。たゞ吹く風のまに〱漕ぎゆく舟を進むれば、すさぶ嵐にゆらぐ大濤小波もたゞ御胸ぞとかしこめば、わきて不平不滿の思たぎるも稀なり。平和の風につゝまるゝ籠の鳥は春來ればとて出て躍らんともせじ。若き人のひたあへぎにあへぎて求むてふ熱き自由の郷もさは求めじ

家庭に對する希望? かゝる問題を胸に浮ぶることすらいとまれなり。こは誠にいつはりのなき自白にこそ。おそらくは我のみにてもあるまじ。とこよの潮の流るゝまゝに從ひてこれを顚覆させんとも思はず。さらば心はうつろか。あらず、望むべく餘り大にしてよも今の世に實行し得ざれば、タイムの力たのみて待つにこそ。覆へる幕を一枚一枚はぎて深龕

にひそむその思取り出さんに求むるは何ぞ。新にして舊、舊にして新、難にして易、易にして難、家庭道徳の缺陷にこそ、日本の家庭が概して個性を重んせざること。人格を重んせざること。宗教心と精神發達の缺陷。自由解放の無意義。趣味なきの家庭。家族制度の影響より個性を重んせるに至りしなり。尤も日本特有の貴き美はしきものもあらんかなれども、惜しむべしこれ等の多くは屈従と盲從なり。自覺ある獻身犠牲こそ望まほしけれ。そこに偉大なる人格を生み得るにあらずや。

キリスト教的宗教心と精神發達の缺乏　キリスト教の弘通未だ普及せず、神を恐るゝの念よりも、人を怖るの念勝ち、法律の網をくゞるの不義はたゞに下流の家庭に行はるゝのみにあらで、中流、上流の間にも汚氣の充てるにあらずや、汚は純潔を產み得ず。吾等は雙手をあげて天父の聖火もてこの汚氣を燒きはらはんことを望む。

今例をとらんにもとより一例に過ぎざるも今度婦人が協同して請願すと云ふ公娼廢止問題の如きもとより其主張はよみすべきもこれを外部より絶滅させんか、精神的發達のこれに伴ふなくんば恐るべき罪惡を生ぜん。もし精神的發達と完全なる道徳の完成を遂げなば、誰れか又遊廓に出入せん。かれ等は自然に滅びゆかん、目下の急務は津々浦々までも、神の福音の傳播せらんことにこそ。現時の家庭の內部果して清よきや。一般道徳の廢れたる今日の家庭に於て一新面目をこそ見まほしけれ。

自由解放主義の無意義　日に月に進みゆく今日たゞ進みゆく／＼てふ名にかられて事理も解せで無暗に自由解放の聲高く自由はやがて放任となりぬ。東西思想の大渦瀾の中に確固たる基礎もなき若き子は寄せては返へす波の間にゆられ／＼てあてもなし。其弊害を見て、一つは昔に退歩す、嚴格なる幽閉をかへつて慕はしむるに至りぬ。實に現代は雜然たる世の大混亂、統一を失ひ個人主義者がごろ／＼ころび合ふかと思へば、家族制度が難破船の如く突き出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

づる也。されど吾等は敢て無意義なる自由は求めじ盲從は欲せざる處、確固たる家庭の主義方針のもとに子女を教養し、進んで迷はざるの基礎を作り、いづこの里に一人放つも翼たゆまぬ強き子女を生得るの家庭をぞ望む。思ふがまゝにまかせらるゝにはまだ弱きを、世の風潮にかられて自由と壓制の混同せるぞ遺憾なる。我々は服從を求む、服從せまほしく思ふ服從し得るの家庭たれ。最後に家庭のあまり無趣味を歎ぐ。寄宿生活の吾々、家庭の趣味を解し得ざるやも知らざれども、靑年子女の品性を高尚につくり上げんには、平和の家庭を望まんには現代の家庭は餘りに冷たし、餘りに趣味に於て乏しきにあらずや。

制度よりも精神が肝要

和泉武　鈴江

私は、善惡にかゝはらず己れの性格、習慣、嗜好、健康等について考へます度毎に、父母はおろか父祖よりさへ感化を受け來り又影響を蒙り來つて居ることを見出し、常に家庭を作るもの、己れ一代のみならず子孫の上にまで、その責任のいかに重いかを感ずるのでございます、故に從つて私の家庭に對する希望を申上ぐるにつきましても、苟しくも家庭を作るものは、ひとり己れの幸不幸、又は家庭のものゝ現在の幸不幸のみならず、子孫代々の幸不幸に至るまで負ふ所あることを深く悟り、此大責任を全うすべき覺悟あり、又いかにして此大責任を全うし得るや否やを顧ることのいかに必要なるかに思ひ至るのでございます。

もし家庭の生活と申ものが夫と妻との關係のみで兩人の幸福をのみ意味するものでございますものならば、互に相識りかつ相愛する間なれば、お互に相讓り、相容れ互にゆるし得るかぎりの我儘位は、許しても差し支へないと思ひます。外へ出て他人の間で氣をつかひ、心づかひして、歸つても何謹愼〳〵でくゝられるようなれば、家庭も牢屋にひとしく思はるゝに至るでございましよう、まづ家庭は互に心をゆるしあひ、外でのうさは家庭に歸つて自由に破裂させ得るようでなくては、家庭はたのしき所と思はれますまいと思ひます。されば時に朝寢坊もよろしかろう、夜更かしもよろしかろう、妻も夫の無理を

きゝ、夫も妻の我儘をゆるし、お酒なども夫が嗜好する所ならば、夫の幸福を傷けざらんため飲酒を許してもよろしうございましよう。喫煙もその通り。

而しながら父母の體格、性格及び習慣凡てが、其子に影響を及ぼし、かつたゞにその子のみならず子孫代々に及ぶといふことを考ふるに至つては、更に考へを改むる必要のあることを切に感じます。己れ一人神をあがめずして罪深き生涯を送り、己れ一人の幸福を少なくして過すことは、自ら求めしこと自ら忍べばすむことながら、神は神を崇めざるものゝ罪を其子三四代に至るまで罰し給ふといふを考ふるに至つては、尙神をあがめず、我儘の生涯を送られるでございましようか。飲酒して己れの身體に害を受くるはやむを得ざることながら、その子に頭痛もちとして不愉快なる一生涯を送らせても、なほ己れの私欲を滿たさんために、飲酒すべきでございましようか、一人の罪は一人に終らず萬人に及ぶ。これに反して一人の德は多くの人々を救ふ、即ち罪は罪を生み、德は德を生むといふことを心に銘しながらなほ罪に居ることはよほど苦しいことだろうと思ひます、家庭を持てるものにして此心あらんか、自ら家庭は清められ、道行はれ、道行はるれば、平和幸福は必然の結果として至ると思ひます。

舅姑への希望

東京　十八公女

親戚にも自宅にも私は年長者が御ざいませんので（母は私の幼い時に他界いたしました）、そう云う御方々の御性質や長所や又缺點等をよく存じ上げませんから、要求と申しましてもあの所は斯う云う風にして戴きたいと云ふ樣な事は、實際舅姑に事へる時でなければ申し上げかねます。然し折角の御尋ねで御ざいますから、つまらない私の考を一二申し上げます。朋友の中では舅姑と別居を稱へる者もありますが、同居を望む者の方が多くあります。私も後者

の一人であります。で第一に御願ひ致します事は、一度他家に參りますと、生涯其の家の者で御ざいますから、喜ばしい事も悲しい事もおかくしなく御話して戴きたう存じます。嫁が可愛さに苦しい事や悲しい事を密め給ふ例はよく耳に致すので御座いますが、却つて嫁は御姑樣は何を御心配遊すのかしらと心配すると思ひます。喜びも悲みも共に致したいと思ひます。第二には私共は學校で家事や料理や數はりますとは申しますもの丶、實地から餘程遠い者でありまして始は失敗も多い事と思ひます。どうぞ幼い子供と思召してやさしく御導き戴きたいと存じて居ります。

結婚について

東京　みどり

匿名でもよいとの御言葉に乘地になつて、大それた事を申し上ぐる積では御座いません。醒めたる女とやら又は新らしき女とやらの心持ちは知りませんけれども、尙は私の申し上げて見たいと思ふ事の一面は、古き女の耳には、或は思ひ上つた囈言とも聞えませうが、けれど今の世に斯る私共の要求は決して〳〵無理ではないと、自らは信じて申し上ぐるので御座います。

「家庭に對する希望」と申すには嚴密には叶へますまいが、其家庭の入口なる結婚又は約婚の場合に於て、許し難い古い思想がまだ〳〵殘つてゐるには私共婦人の爲めに殘念な事だと思ひます。

と申しますのは、男子の品性とか又は素行とかが結婚の條件として、まだ充分なる位置を占めてゐないと云ふ事で御座います。職業、財產、身分などは確かに必要な條件に相違御座いますまいが、けれど何故に男子の素行と云ふ事が、尠くとも他の條件と同じ程度に重要視されないでせうか、身分もよし學問もあり財產もあり、其上之れから出世する見込があるとでも申しますなら、結婚の條件としては此上

もないと考へられて居りますので、娘を持てる親々がかやうな媒介には出會ますれば、一も二もなく良縁だと喜んで、最愛の娘を手離すので御座います、其時たま／＼其男の素行についてよからぬ噂が耳に入りましても、若い中には有り勝ちの事だと申し、又は其位の事をした人でなければ、世の中が分らぬなど〻、不品行と云ふ事が却つて結婚を成立さする條件になる樣な傾きが、まだ／＼見えるので御座います。

何故斯樣な考が許されてゐるのでせうか、之は俗惡な現代の現金主義の一面かも知れませんが其根本は乾度男のみが尊ばれて、どんな我儘も出來るもの男の都合のい〻やうに世の中が出來てゐた結果では御座いますまいか、今更男女同權とやらをとなへたとて始まりませんけれど、十八年なり廿年の清い我生涯を與へる男が、一寸した誘惑に打ち勝つ事が出來ずに、又は打ち勝たふとさへ思はない程下らない者であつたら、其全生涯も測り知られるではありませんか。

私は純潔なる男子にして始めて純潔なる女を要求し得る權利があるのだと思ひます。不貞なる男子の相手はやつぱり醜業婦が適當で御座いませう。

私は結婚の條件として身分の自分と職業と財産を吹聽して、自己の素行を云ふ事の出來ぬ男をあさましいと思ひます。自らは汚れたる身でありながら、よく／＼女子の身許調などが出來るものだとあきれて仕舞ひます。而して又こんな男の云ひ分が通つて行く世の中と、之を受容れる親達を情けない事だと思ふので御座います。

今の若い女は醒めてゐるといひます。ダイヤモンドと馬車にあこがれて、不貞なる男子から侮蔑された愛を受けて滿足する事は到底出來ぬ事だと存じます。

子女教育と現代思想の解釋

海老名みや

△新らしき女

男子と女子とは、遠き古の初めから、共に此地球にすまつて居まして、良人と呼び妻と呼ばれ、父と稱へ母と稱へ、息子、娘、兄弟姉妹となつて、深い〳〵關係を結びあひつゝ、日ごと夜ごと、顏見合つて、お話しあつて居りましたものが、どふしたものか、近比フット女の顏が眼につき初めて、ヤアおまへの顏に墨がついてゐるの、鼻がチト高すぎるの、口がおちよぼだとか、鰐口だとか、あゝだかうだと新聞も雜誌も婦人問題で持切の有樣ですが、何と不思儀な事では御座いませぬか、之れ迄男子の方でも女といふものは從順、其命に從ひ、よく朝夕のお世話をしてくれる、調法なものだ位にぼんやり考へて居ました、女の方でも自分は女と生れたが因果だ、仕方がない、マア何でも御無理御尤で男子の御意に從ひ、出來難い辛抱するが女の道だと諦らめて居りまして、敢て男子にてむかふ樣なことは、思ひ出しもしなかつたものですが、時世時節とでも申すのでしやうか、それは〳〵思ひ切つた事を公然口にし筆にして、うつかりして居た、父母や先生方を驚かすといふ有樣であります。「チョット花子さんあなた今日○○先生の倫理のお講義お聞になつて、マアずい分陳腐だわネへ」などゝ批評を試みる女學生は決して少くはないさうです。其陳腐だといふ意味はどこにあるか、其解き方が陳腐だといふのではなく、根據が丸で違つて居て、忠君愛國、親孝行の如きは十九世紀道德で、廿世紀の青年には何のかゝはりあらんやといふ風で、殆ど其心に響かないかの樣に思はれます親孝行なんて隨分勝手な道德だわ。親は自分の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勝手に子供を產んだから、其產んだ子を可愛がるのは當り前だけれども、子の方からは何も親に賴んで產んで貰つたわけぢやなし、孝行をする義務なんてない筈だわ」などゝたとへ友人に對してにしろ、公然こんなことを花の唇からもらすといふことは、實に驚かずには居られませぬ。勿論これは極端の例ではありますが、こんな思想が自由自在に、青年男女の頭の中に、動いて居るといふことは、間違ひないことであると思ひます。

△新舊思想の衝突

昔の女は親の中に良人の中に子の中に生き居て、己れ一個の存在は、殆ど認めなかつたものでありますが、近比は自我とか個性とか、盛んに主張して、男子でなければ言はなかつた理屈を、どし／＼いふ樣になりましたのを兎も角も大進步と言はなければなりませぬが、餘りに右から左と急轉しましたので年取つたものには何のことだかさつぱり分らなくなつて仕舞ひました。中には只考へたり口でいふたりするばかりでなく、あたり構はず實行するものさへ出來て參りますので、親たるもの師たるものは大まごつきで、心配をすることがしば／＼起つて參ります。マア例へて申さば長夜の苦しい夢グハット覺めて、眼を開いて見ますと、太陽はきら／＼とまぼしい程、我頭上を照らして居りますので、我と我身を整へる暇もなく飛び出したといふ有樣で、中にはしだらない、みにくい、寢卷姿其まゝのものもありましやう。御當人は案外眞面目でありますが、傍で見て居るものには、殆ど半狂亂の體としか見えませぬ只もうはら／＼して、何うしてこれを止め樣か、止めやうかとばかりかゝります。こゝに於てか新舊思想の大衝突は必然起つて參りまして、青年の側からは、我らの心情を解して下さちない。少しは現代思想を容れてくんで下されてもよささうなものだ。さう一から十まで排斥されては、もう仕方がありませぬ。我々は我々の思ふ儘にやりますと　断乎たる態

度をとります。もうかうなると先輩の言も親の教訓も彼らの前には、全く無能無勢力となつて仕舞ます。何もかも打破し去つて突進しやうとあせつてる血氣の青年を止めやうたつて止められるものではありませぬ。又無暗にこれを止めるのは間違であらうと思ひます。此現代思想には必大眞理の含まれて居ることは疑ひないことゝ思ひますから深く研究を致さねばなりませぬ。

△婦人問題の賑盛

そはとまれかくまれ、多少の教育を受けた若い女子が、一度此の思想に觸れましては、青春の血は湧きかへる様に感じて、思想とゝもに擧動迄も一變するのは當り前のことであります。そこで皆人の眼について現代女學生だ、新らしき女だ、娘問題だと女の研究が盛んに起つて參りまして、様々の方面から批評され、批難され研究されるのでありますが、不幸にして其多くは、其眞情を見誤まりたる誤解や惡評であつて、なんでもない事を非常な徳義でゝもあるかの

様に書なされてある様なことがあつて、これでは却て無邪氣な少女の心を痛め、又悪智恵を與ふることになりはしまいかと思はれる節が多くありまして、見る度々に心苦しく思ふのであります。わけても現代思想を己が汚れたる心のまゝに解釋して大悟したかの様に心得て居る輕薄放蕩男子の筆になれる文を婦人雜誌に堂々と掲げて、貴婦人の愛讀を乞はんとする雜誌營業者こそ實に惡むべき事でありますが、これによつて我國の男子が女子に對する道德の如何に痺れて居るかゞ察せられます。今チヨツト其一節をあげて見ましやう。婦人は「偏狭で貧弱で」到底獨立するとの出來るものでないといふ事を論じて

「婦人は到底獨立して生活してゆくことが出來ないから餘儀なく男子に從屬して生の糧を獲んとするもの結婚の標的は家に嫁くのでなく己れの生命に嫁ぐものだ……

それから妻は己が「生活の資」を獲る爲に良人に身をうるのだ「淫賣婦」と異ることなし「生活の不安を遁れる爲に」男子の犠牲になつて居るのだから度量を濶くして男子の放蕩などはあまり苦にやまないがよい。「愛は永續すべきものではない」、束縛と服從と桎梏と其以外に何もない」が只其女子のあはれな犠牲の境遇に男子の同情をよび起してつなぎ留めるのだといふ様な事を臆面なく書てありますが、實にこれが一面現代青年男子の聲であると致しますと、誠に恐ろしいことであります。今覺めかゝつた青年女子は何んと感ずるでありましやう。必ずこれに對する女子があるに相違ありませぬ。實際其雜誌に女子が書きました男子を罵倒した文があります

「男とは虚榮心と功名心とに使ひ廻されてバタバタして居る生物である」……

といふ様な、實にこんなことがごふして女の口からと思はれる言葉が思ひ切つて、無遠慮にならべられてありますのを見て、ア、實にこれはよい御相手である。が、實にこれが高等敎育を受けた人々であうか。どこに紳士たり貴女たる面影がある。丸で裏店のつかみあひである。成程これが自然を曝露したものであるか、其人々の自然はなんと卑しい低ひもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であるかとしみ〴〵なさけなく思ひました。

△革命の渦中にある青年女子

今や此現代思想は我國女子の上に及びまして、大革命を來さんとして居りますが其潮流にある青年女子がはやり心にうか〳〵と其渦中に巻き込れて、あはれ身も魂も時代の犠牲となり終る様のことのなき様鄭重なる態度をとられんとは、深く〳〵願ふ處であります。又私は世の男子方が女子に對する態度を今少し鄭重に又深切にせられんことを願ます。面白半分、からかひ半分の批評や研究はやめて頂き度い。そして眞面目に日本女子の研究をして戴き度と思ひます。日本女子には必ず米國女子にも、英國女子にも、獨逸女子にも、見出し難い特色があるに相違ありませぬ。温しい一方かと思つてると中々きかん氣の處もあります。殊に教育ある青年女子は男子の態度如何で、其性格にどんな豹變を來さないとも限りませぬ。又我々母として先輩としては、現代靑年の中に盛んに動いてる思想を出來る丈了解することを務めねばならぬと思ひます。今の娘さん等は私どもより餘程利巧で多趣味で物をよく知つて居られることは間違ひありませぬ。お芋の煮へたも御存じないお孃さん方もありましやうが、お米はこれ〳〵の成分で成立つて居る、水は何〳〵と理化の智識を持て居る方が、お芋を煮るよりえらいに違ひありませぬ。マア電車の中で一見した處で、我々の娘時代と今の娘さん等とは、其表情に於て、大變な違ひがあるではありませぬか。我々の古い眼には如何と見ゆることも、新らしい氣持になつて見ますと、思ひの外よく見えます。私共も可成新らしいことを、新らしことをと、學んで及ぶ丈共に行ける樣にしなければなりませぬ。さうしませぬと我々の判斷がくるつて、よいこともあしく見えるといふ樣になりましては、若い人々の示導を過まらんとも限りませぬ。私共の二十年三十年の長い實驗と、其實驗から得たる智識は實に貴いものでございます。其貴い物の上に新思

想を加へが、其現代を解釋して、我子女を教育することは今の母親の急務であると思ひます。

兎も角も今こゝに現代婦人の、狀態の一面を記して、御参考に供しますから、追々に皆樣の御意見を伺ひ、又私の希望や考をも述べて見度と思ひます。

男子の我儘論

東京　俊子

記者日本篇は遅れて着きましたので先の部に入れる事が出來ませんでした

家庭に對する希望ですつて？ 随分むづかしい事をおつしやいますのね。私も、女學校だけは卒業いたしましたけれど、も少し、勉强したいが一ぱいで、やつと、父母の許しを受けて、此都に參りましたので御座います。そして、只今では、學校の課業に、毎日窮々として、そんな事考へたことも御座いませぬ。けれども、どうせ、女で御座いますから、一度は、家庭には入らなければ、父母が許しますまいとは存じて居ります。

そんなら、「どんな家庭を望むか云へ」とおつしやるので御座いませう。夫は、秘中の秘密を云へとおつしやるやうなもので、禮儀の上からは、少し破格で御座いますね。それでも、一般の若い女を指導したいとの思召で、若い女の心持がおしりになりたいとおつしやるなら、私は、外の大勢樣の犠牲になつて申し上げて見ませう。

具體的に、どんな家庭とおつしやると、困りますけれど、男子方から、女子をどんなに御覧になるかしりませぬが、女子から、男子を夫として見ます時は。友としてゞはなく、どうしても、一段も、二段も上のものとして、見上げたう御座います。昔し風を慕ふとおつしやるかしりませぬが、私は、夫は、即ち所天として、衷心から仕へて見たいと存じます。それですから、人格も、實力も敬服して、心服して、奉仕することの出來るやうな人でありたいと存じます。いま一つ、それは、性質の方で御座いますが、女子が、女らしいのがよいと同じやうに、男子は、男子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らしい、さつぱりした、快活な氣象がよいと存じます。

こんな事を申し上げると、それだから、女子になまじひ、勉強をさせると、理想が高くなつて、生意氣になつていけないなぞと、直ぐに武裝をなさるかしれませぬが、それは失禮ながら、男子方の、極度の我儘論、かつは、卑劣論ではないかと存じます。それはもう、山の麓から、その頂上を見上げますのと中腹に上つて、見ますのとは、大分その高さがちがひますやうに、勉強しない中は、たゞ、强い男子には、頭から盲從すべきものと考へ、かつ、何が何だか分らずに、ゑらく尊く見えたりしたものが、そんなに尊くも、偉らくも見えなくなることも御座います。それで、男子方に取りましては、何も知らぬものならば、何がなしに威服して、何もかも、自由自在に我儘がとほるのに、さう、女子に生意氣になられては、大にその威嚴にかゝはると、こんな御說が出るのでせう。しかし男子方は、そんなに消極的に女子を壓服して、男子專政國にしやうとなさらないで、もつと、積極的に、ます／＼、品性を高め、實力をおすゝめになつて、どんなに、女子が努力して勉强しても、少しもその價値を見劣さるゝことなく却て、女子が勉强すればするほど、ます／＼その尊い價値を認める事が出來るほどにお進みになつては如何で御座いませう。そしてお互に、相敬愛することが出來るやうになりたいと存じます。

序に申上げますがどうも、此頃は、女子に高等敎育を受けさせると、生意氣になつて、女子の生命ともいはるゝ、優しい、可愛らしい處がなくなるなぞと云ふお說が少なくないやうで御座いますが、それは、私が、友達仲間で觀ました處さは、大層相違した觀察で御座います。それは、一二の例外は御座いますが、私の見ました處では、高等の敎育を受けた女子は、よく物事がわかつて、受けない人に比すれば、どうしても人格も出來て居り、且つ謙遜な人が多いやうに存じます。そして、やさしい、可愛い優美な處などは、高尙な文學などによつてよく補養せられるのでないかと存じて居ります。

時事の折々

▲墨西哥革命の因果

▲墨西哥の革命運動は再演されたといふ當時から其眞相を詳報致したいと思うてゐたが、滿足すべき材料に乏しいので、わざと差控へて居たるが、愈々今度こそ革命軍の勝利に歸して一先づ大團圓を告ぐるに至つた故、今更めて該運動の原因結果について解明しておきます。

▲墨國革命の原因如何といふに之には二個の要素があります。一はデヤズ内閣の永續、二は之に附隨して米墨兩國間に密接なる經濟關係が起つたといふことです。前者の本尊はデヤズ其人で、墨國官僚黨の首領。後者の夫はモルガンで、問はでも知れた米國資本家の首領であります。而して米國は現に其資本十二億五千萬弗（我二十五億圓）を墨國に放下してゐる。大統領タフトの對墨政策は一にモルガン及び其與黨ウヰチール街（紐育の取引所所在地）の金滿家の頤使を受けてのことだといふ所報も、かう考へて見ると滿更虛妄ではないらしいのです。

▲然らば其兩本尊は如何なる者ぞ。デヤズは今や齡八十餘歳の老將で、デヤズが八回の大統領總選擧にいつも成功して過去三十餘年間其政權を維持して來たのは強ち偶然ではない丁度我國維新の革命家が今日の政權を獨占してゐるがやうなものです。加之、デヤズは精力に富み、しかも、非凡な將軍で、同時に老練なる政治家で、亦敏腕なる外交家であります。彼は三十餘年間墨國の政治を自由にした此間彼が養成した官僚黨は飽くまで發展した其行政機關は擧げて與黨の手で壟斷した。其立法機關は亦自家の製造物であつて、自黨の勢力を扶殖するに全力を注ぎました。で其施政を喜ばぬ連中がポツポツ起つて參りましたが、いつも非常な壓迫を加へられてゐた。

デヤズが前後三十年間大統領の椅子を占めて一種の君主專制を見るに至りしことは、素より其人格と勳業と材幹とに由ることでありますが、敏俊な彼は、鎗先で墨國の天下をとつた將軍たる名譽を維持すると共に、墨國の產業開發に著目した。これが絕大の後援者を見出すべき原因であつた。

▲それは何かといへば此機に乘じてかねて久しい間墨國の無限なる富源に垂涎してゐた米國資本家はデヤズの招待に隨喜の淚を流して應じたのである。則ちデアズは米國の資本を輸入し自國を米國化し、此手段によつて其政權を獨占しやうとしたのである。かうして金權と政權との情意投合が出來たといふのです

▲大統領デアズと米國資本家との情意投合は一躰どうして出來たか。デアズは隱然たる獨裁の君主である。彼は豫想の如く米資に由つて墨國を繁榮ならしめた。墨西哥市をして模範的文明市たらしめた。三百萬弗の劇場は同市を飾る一大美觀で、壹萬五千哩の鐵道は墨國の產業を敏活ならしめた筋骨である。

然しかかる急速な發展をなすからには慥かに莫大な代價を拂はねばならない。即ち墨國の富源は沃壤なり、鑛山なり、產業なり、悉く皆米國の資本家に提供せねばならなかつた。今や墨國の交通機關は事實米國人の所有であ

り、運送事業も、金銀銅及石油業も、ヨーキ河沿岸の沃地も、ユカタン地方の大麻、護謨栽培地も悉く米人の手に歸して了つた。

かやうにして米國人は此等の所有權を得て事業を經營するに至りました。其徑路こそ眞に犠牲の歴史であります。一例を擧げて見ませうか、ヨーキ河岸の豐饒なる土地を米國人に與ふるがために、ヨーキ人を教唆して謀叛せしめ、終に彼等を奴隸の境遇におとし、ユカタン地方の大麻栽培地へ强制的に運搬して殘虐酷使するやうになつた。そして憐むべきヨーキ人は温帶地方より急に熱帶地方に送られたるが爲と、粗食を以て苦役を强ひらるる爲とに依つて或時は五百人中三百人は無殘にも非命の最後を遂げたこともあつたそうです而して其賃銀はといへば、僅かに生命を支ふるに足るばかり、武裝せる監督者が常に强迫して使役し、其辛うじて得たる賃銀はやうやつと糊口の料たるに止まる。

一人の米國資本家が誇り顔に墨國の理想的金儲けの國たることを揚言しましていふに墨國の土人勞働者は金穴である。官吏に頼めば一人を三四十弗で何百人でも供給して呉れるデャズは理想的政治家だ。勞働賃銀を增してならぬと命令した。加之、此ヨーキ人を勞働せしめ高い食料品を賣りつけて莫大な利益を得る。昨年一個月に五千弗の貨物を以て一萬五千弗の純益を得た。墨國勞働者は眞に金穴であると。デアズ及其與黨は米國の資本家に此等貴重なる權利と富源とを與ふるために莫大なる利益を着服したといふ噂で、其政權を維持すること久しいほどデャズ一派の利益であることは勿論でありませう。從て選擧干涉、新聞の發行發賣禁止、集會言論の自由の壓迫等有ゆる手段を以て人民の自覺の勃興するを抑制するの必要がある。八回の總選擧は干涉と壓迫とに依つて得たるものである。

▲然るに墨國人は生來の愛國者である。自由を愛するの人民である。一千五百萬の人口中一割九分は歐州人の末裔で、四割三分は混血子孫で、殘餘三割九分が純然たる墨國人であります。而して彼等は皆當然自由民たるべき筈なのに、無智な土人は金力と權力との犠牲となり、多く奴隸の境遇に在る。時は至つた。自由民權の思想は旋風の如く墨國の天地を撫で始つた。排米思想はやがて排デャズ黨となつて表はれた。これ革命運動の前兆である。

▲昨年の春、デャズ再選擧反對同盟會なるものが呱々の聲をあげた。これ單にデャズ反對黨のものを推立てんとするのであつた。然るに其總選擧もデャズ一派の壓迫干涉の結果、遂に其勝利は八たびデャズの手に歸して了うた。而して反對黨の首領マデローは美事落選した。彼が斷然決意して革命の旗を飜したのは實に昨年九月廿日である。

▲其後の情報を逐一玆に陳ぶる必要はありませぬ。結局此度こそ反對黨の勝利に歸し、デャズ老大統領は辭職の誓をなすに至つた。而して平和條約は愈々五月廿一日深夜ジュアレス税關に於て調印されました。其内容は左の如し。

第一條　デアズは五月末迄に辭職すべきを宣言す。

第二條　副大統領は同時に退職すること。

第三條　現外務卿デラバーラは臨時大統領となり追つて總選擧を行ふこと。

第四條　新政府は憲法に依り付與されたる權能に依り現狀に適合すべき滿足なる施政をなすこと。

此外兩代表者は左の契約をなす。

兩軍は二十二日以後全國大戰鬪を中止し、軍兵を解散す。但平和秩序を維持するに足る兵數を各所に駐むべし。

又共に鐵道の交通を速に恢復すること。

以上條約調印の際は夜已に遲く税關内に入

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る能はずして階段にて燐寸及び自働車よりの照燈にて漸く調印を終へたそうです。

▲清國新内閣の成立

▲清國新内閣官制は五月八日を以て發表されましたが、右は各國立憲君主制を採用し現在の清國國情に適合せしめたる者で、清國憲政の準備事業として最も重要且有力なる施設であります。或は之を以て唯單に舊來の官名を替へたのみで、其實に至りては毫も從來と異らないと申すものもありますが、然し之で責任内閣の端緒が少くとも成法の上で啓かれたることは、大に隣邦のために慶す可きことゝ思ひます。

▲而して今其顔振を見るに、總理大臣慶親王、協理大臣（副總理大臣に當る）那桐、同徐世昌、外務大臣梁敦彦(目下米國滯遊中)民政大臣肅親王、度支大臣(我大藏大臣に該當す)載澤公、學務大臣唐景崇、陸軍大臣蔭昌、海軍大臣載洵公、農工商大臣溥倫貝勒、郵傳大臣盛宣懷、理藩大臣壽耆等で、慶親王以下皇族五人、那桐以下滿人四人、徐世昌以下漢人四人から成つてゐます。滿漢人を對數とし其上に多數の皇族を加へたる如きは攝政王の敏腕によらざれば到底なし能はざるところであります。

▲更に我樞密院の制に則つたる弼德院は内閣と關聯して最も重要なるものでありますが、陸潤庠の如き德學一世に高き人を以て其議長とし之に滿人大官を配して副たらしめたるが如き洵に策の宜しきを得たるものであります▲尙又内閣とは直接の關係はないが所謂清國の參謀本部たる軍諮府には攝政王の長弟たる濤貝勒並に元軍機大臣たりし毓朗貝勒をして正副大臣たらしめました。いづれにせよ隣邦が漸次革新の曙光に觸れつゝあることは、大に賀すべきことであります。

▲佛國陸相の慘死

▲世界列國が競爭して其研究に熱中して居る飛行器は今や長足の進歩をなすに至りましたが、從來之が爲めに幾多の生命が犠牲に供せられたことであります。

▲さてもこゝに一大慘劇が出來した。去月二十一日佛國首都巴里に於て該市と西班牙の首都馬德里との間の飛行競爭が催され數萬の觀客は朝來其開催地に群集した。用意も整うた競技者の一人、トランは單葉飛行器を以て其操縱を試みやうと發足を切りしに、同氏の飛行器は約二十五呎昇りましたところが、どうしたことか、機は不意に搖れ始め觀覧席目がけて突進し來りアワヤと立騒ぐ群衆の間を六十キロの大速力を以て縱横無盡に馳せ廻はつたれば何かは以て堪るべき、無慘の最後を遂げたるもの數知れず、殊に唸を立てゝ速轉し居れる推進機は最も怖るべき慘劇を擅にして先づ居合せたる陸軍卿ベルトー氏の右腕をプツリと切斷し咽喉部を抉り數分を出でずして其場に即死せしめ、續いて首相モニー氏に突當りて其一脚を折り顔面其他に重輕傷を負はせて瀕死に陷らしめたる等こゝに端なくも一大慘劇を見るに至りました。飛行家トランは負傷こそせざれ恐怖のため遂に狂氣になつたといふ報知がまゐりました。

▲右の犠牲となつたベルトーは一千八百五十二年セーヌ州サン、モール、レ、フオツスに生れ一千八百九十三年ウエルセームより選出されて共和黨代議院議員となり、一千九百四年より翌五年までコンブ内閣に陸軍卿となり、當時モロツコ問題に關し獨佛將に干戈を交へやうとしたる秋に際し、軍備不充分の故を以てデルカツセ氏(當時の外相にして、今次の海相)の主戰論に反對したるはベルトー氏であつた。本年三月モニー氏がブリアン内閣の後を受けて内閣を組織したる時、氏は再び新内閣の陸相として其椅子を占むるに至りました氏は社會急激黨の領袖で、僧侶反對黨の急先鋒であつて、新内閣の大立物として知られたる人であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

随感

習慣にとらはるゝ弊

海老名みや

近頃衛生思想は一般に進んで參りまして、春秋の大掃除に、裏店の不潔な塵もはき出されますのでどの位氣持がよいか知れませぬが、途中歩きながらいつも／＼たまらなくいやに感じますのは、溝の臭氣です、下水工事の不完全なのは慥かに東京市の大耻辱だと思ひますが、そんな根本な手間のかゝる、金のかゝる問題は後廻しとして、東京市中の道路に此不潔な下水が撒き散らされてあるのを、其筋の人も亦人民も、平氣で居るのは驚くではありませぬか。

昨日もある可なり廣い道を通りますと、甚しい不潔な溝の臭氣が致します。其兩側に大きな溝が流れて居るからだらうと思ひましたが、見ますと店の小僧が、柄の長い杓を以て、其溝水を盛んに撒いて居ます。道理で、いつもに勝りてひどい臭氣を感じましたが、衛生／＼とやかましくいふそばから、こんな非衛生なことをして居ますのを、側で巡査も平氣で見て居ます。マアお隣の小僧さんが内の前にも撒いて呉れて難有うと、近所の人々も喜んで居る樣な有樣。といふものは長年の慣習で、毎日／＼幾回となく仕來りまして、單にほこりを鎭めるといふ單純な考へのみでありまして、其家々の人も衛生掛の人も曾て他に考へ及ばないのだと思ひます。實に習慣といふものはおそろしいものです。こんな樣なことが世間にいくらあるか知れませぬ。たとへば緣日に出かけて見ますと、樣々の店がありまして押あひへしあひの中で景氣くよ商ひをして居ますが、中にも白飴ブッキリ、鐵砲玉を開けつぱなしの箱の中に、山盛にしてうつて居ります。そこには黒山の樣に人がた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かつて、小供も大人もかつて居るのを見ますと、マア何んといふ恐ろしいことであらう、あの白く立のぼつてる塵の中にどれ程のバクテリヤがあつて其バクテリヤをあびた飴を小供も年寄もしやぶつて嬉しがつてるとは危險千萬なはなしであります。これも長い間の習慣で、夜眼にてら〳〵光つてさもおいしさうに見へる外に何も考へないのであります。いつか私も少しばかりの辛し漬けを作らへまして、其を入て仕舞度と思つて小さな瓶を瓶をといくらさがしてもありませぬ。ハテ困つた、一つ求めねばなるまいかと思つて、ふつと考へ付きましたは明きびんです。食鹽の明びんでなど適當のものが幾らもありますのに氣がつかず瓶を〳〵とさがしたのをおかしく思ひました。これが若しヂャムやチエリを作らへましたのなら、すぐびんを考へ出しますがからしづけだといへばむかしから瓶にいれることゝばかり思ひ込んだ習慣がある爲に瓶に比べて數等上のびんがあるのに氣がつかないのです。こんなことはどれ程あるか知れませぬ。習慣といふことは非常に貴いよいことですが大事な頭腦が働きませんで、習慣にばかり使はれて居りますと、人は器械同樣になつて仕舞ます。日進月歩の今日です。古い習慣は打破して新らしい習慣を作る樣に萬事に頭腦を活働させて行きませぬと世界の文明に伴ふことは六ケしいと思ひます。

さま〴〵なる歡待振

安井哲

一、長時間汽車に乘つてやうやく友達の家に着くとにこ〳〵顏に迎へられ「嘸お疲れでせう、お話は後でゆる〳〵、先御入浴を」と勸められ、清いお湯に汚れを流して再び室にもどつて來れば、別に御馳走はありませんが、さだめて御空腹であらうからとて手輕な御料理で早速の夕飯、之れこそ眞の歡待であると客は實に大喜びでありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二、ある時又旅行先で舊知に逢ひ、五六名の人々から歡迎を受けました。久しぶりの面會故と、固辭するのも聞き入れず御馳走するといふ騷ぎ。やがてお膳が列べられ、「折角の御饗應まことに恐れ入りました」と頂きかければ、後から後から出てくる珍味の數々、日本料理に、西洋料理、其三分一さへ頂ききれず、殊に西洋料理は冷めたくなつて全く味を損するといふ有樣、客は實に心苦しく唯「お氣の毒樣で」と繰返へすばかり、客の心に滿足を與へるのが眞の歡待であるとつくづく感じました。

若葉のかげより

千香女（投）

妾はこの世の鮮な光に接してよりまだ人生の中途にも達しませぬ至つて經驗のない極く思想淺薄無智無能の大供でございますから、さてものごと最早や世の中の甘も苦しよくごぞんじの諸賢姉の前に事らしく書き立るのは誠に恐れ多い事で御座いますが、又眞ふた子に敎ねられて淺瀬を渡るといふ諺通な方々もある樣ですから、敢てこゝに妾の近頃感じた鄙見の二三を書き綴つて見たいと思います。

○再び御尋ねするのが厭になる

皆樣も御經驗遊した事と思ひますが實際東京程御家のわかりにくい所はないやうです。同じ樣な横町が幾つもあつてしかも同じ番地が二十も三十も四十もあるのでございますもの、いくらよく道すじを伺つていつてもすつかり見あたるといふ事はまあないと斷言してもいゝ位です、然るをやつとのことで見あてゝヤレ／＼と思つて御免下さいと案内を乞ふ時に「ハイ」とすぐに取次に出てきて下さる時にはどんなに氣持がいゝでしよう、丁度渇いた時に一つぱいの水を頂く樣です、これに反して殆ど聲のかれるまでソプラノだのアルトなどと色々な調子で以て呼べども叫べども中々御返事の御座いません時はまあどんなにがつかりいたしますか疲勞も吐息も一時に出てまゐります、こうゆふ事が一度ならず度重ります時には遂にはもう御尋ねするのが厭になります。妾は度々こういふ思を起した節がございます。かゝる小さいつまらない點にまでも良妻賢母の實を擧げて頂きたいものであります。

○くだらい御話

何處の御宅へ伺ひましても又は色々の婦人會へ出席いたしましてもいつも痛切に感じますことは婦人等の御談話の範圍の殊にせまい事であります、時候の挨拶がすめば家庭のくだらない事、小供の事自至は人の噂位のもので、もう少し深く進みますと一家の愚痴を持出す方を度々見受けます。其外食べる事位が關の山の樣でございます。これでは何のために人を訪問し又訪問せられ又集會するのか一

肝要領を得ない様であります、かくては御互に何の愉快も感じませんから従つてあまり何の會も振はないし又個人〳〵の訪問もおつくうになりやすくなるのでございましよう。かゝる缺點は必ずしも日本婦人の學識の幼稚なためばかりではなくしてむしろ古い習慣から脫し得ないでいつ迄もその中にまごついてるからだろうと思ひますこの點は西洋婦人の最も優つている處であつて皆様のよく御存の處であります。西洋〳〵といふならばかゝるよき點を第一に學ぶ可きであつて襞をちぢらしたり腰を細くする事は二番以下に眞似る可きでありましう若しクリスチヤンであるならばくだらない御話の變りに、神の御言葉の一つでも傳へたならば、どれだけ御互の利益になるでしようか？

牧師様が傳道をせよと仰つしやれば、やれ小供が多いの家事が多忙だのと、いろ〳〵なつまらない口實を設けなくても、かふいふ風に時を利用すれば立派に傳道はいつでも出來るであります。又集會に於ても只むやみに人前を憚つて自己の考や主張位は容易に沒却する様であります。若しそれ若い女が一番奮發して御感話でも致しますならば、直に先覺婦人等から生意氣と云ふ尊號を頂きますから、それを非常に恐れてゐる様であります。然し我々現代の婦人はいつ迄もかやうな一種異なつた變見のもとにまごついてゐる可き時でなく、大にこれらの愚なるしきたりを破る可き責任があると思ひます唯現今の婦人は善に對する勇氣と決心と斷行が乏しいのが大なる缺點の一つであるやうであります。

○權威がほしい

今のどの女もこの女も只表面のみ人によく見られたいとあせつてゐる様に見ゐます。従つて風彩が顯著になり、白粉をぬりハイカラにならざるを得ないのであります。故に現代の女は大抵美しくしかも實相に見えます。然るに今日の新聞は女學生の墮落など事々しく書き立てます。これは新聞が惡いのであろうか、女學生が惡いのであろうか、新聞も隨分事件を誇大視する様の傾がありますが、一體は今の女が餘りに表面の事にのみ氣を奪はれて内なる權威を修養する事を怠つてゐる結果の様に思はれます。愛國婦人會其他種々の會へ行くのも、又教會へ出席するのさへも婦人の一種の虛榮心を滿足させる爲めの様であります、故に愛國婦人會には内輪もめが絶ゐないのみならず、總會はいつも婦人の衣裝展覽會の如き奇觀を呈するのみで、其他はゼロであります。又温たなかる可き教會の内でさへ時々冷たい感を我々に與ゐる事があります。若し婦人にして眞に内に養ふ所があつて確固たる信念の上に立つて、動かす可からざる權威即ち神の眞の愛子と云ふが如き聖なる思ひをひめいるならば戲談の如きを言ひ掛けらるゝは扨ておき、恐らくは男子は凡て眞の尊敬の意義に於て女子を尊敬するでありましよう。かくすれば我々婦人は墮落せんと欲してもその途がなくなるのであります。願はくば凡ての女子がかゝる精神に滿たされるならば、今一歩我國の道德界も進歩するでありましよう。

○莊嚴の感に打だれると共に不朽の樂しみの場所であつてほしい

東京にある多くの組合教會へ行つて見るのに一種言ふに言はれぬ莊嚴の感に打たれると言ふ教會はまあないと斷言したい。かゝる點に於ては羅天主教とか聖公會の方が優つてゐるかもしれない、けれ

ども我々現代の者はさてもあの無意味な長い祈禱や說敎に堪ねられないのであります。敎會はどうしても我々の感情と理性の兩方面を滿足さすべき所である可きでありますよう又我々敎會へ行くのは心の奥底にある一種の寂寞を滿足さしてもらひたいのであります。故に敎會の門を出るや否やホツト吐息をもらす樣ではそれは眞の敎會でありますまい。いつ迄も忘るゝ事の出來ない卽ち心のどん底にキリストの言葉の活ける泉が與へてほしいのであります。これ實に我々現代者の最も要求する處の敎會であります。

○敎會の擴張と傳道

ある敎會では只自己の屬する敎會の繁昌せん事をのみ勤めている人が多い樣であります。私は思ふ、牧師にせよ信者にせよ敎會は決して繁昌させる必要はない。傳道とは眞に力あり命ある渴仰者を得るの謂で必ずしも自己の敎會に入ると入らざるとには全く關係のない事であつてこの世界に一人でも斯かる人間を殖やせばよいので、それで牧師や傳道師や信者の責任は充分盡くされたものであると思ひます。今や世の中は凡て競爭主義利己主義であるけれども敎會相互が反目して只自己の敎會のみ擴張して自己の名聲をのみ擧げん事にあせり又或る敎會にては一年二年に渡りても新入會員のなき時には直にその敎會の主任者を無能視するが如きは各自の主張に大に悖るところであつて又基督の取り給はざる所と信じます。若しかゝる有樣にてはいかで眞の基督者を出す事が出來ましよう。蒔きし種は何時かは芽を出します、余りにあせつて過つ可からずであります

○新樹空に聯り翠色滴らんとす

春芳漸く歇きて青葉若葉の梢に色めく時となり里川の水淸うして柳も綠の系を垂るゝ樣になりました、今や旣に夏の至れるを知ります。今にして殊に我々若き者は大に內に養ふところがなかつたならば將に來らんとする煩暑酷熱の爲めに風化し水濁れて涼を取るに由なく只徒に煩悶苦惱するの愚に陷るであだましよう。いつ迄も過ぎ去りし春色の美を夢見ている時ではありますまい。

白つゝじ

孝子

さきほひし赤坂見附の花のあとはいづくぞ。ただ葉櫻の心地よき頃とはなりぬ。散りし花は戀しかられど其雲のきえしあとの思はるゝかな。されども今我をなぐさむる。深堀のつゝじなりけり。けがれなう咲き出でしさま美しさもうるはしさも其皆の葉しらず。白つゝじよ。白つゝじよ、花も咲かざる如きかたき枝より出づるは我がしたふ白百合にもまさり一入貴し。げに我心から深くあらまほし、など思ひつゝ水の面を見れば春の深堀に姿うつしつ花はこの水の中にもほゝゑみてありき。」(敎會へ行く途中)

編輯だより

△近頃は婦人問題が非常に盛で御座いまして、世の視聽が悉く婦人の上に集つて居ると云つても差支がない程で御座います。「現代の女學生」「新らしき女」「娘問題」など、各新聞は爭つて此問題の解决の爲めに材料と刺戟を與へて居ります。本誌は發刊の當初から婦人の健全なる覺醒を叫びましたもの、斯かゝる問題が一世の輿論となつて來た事を見まして、吾等は尚更に吾國婦人のために最善の努力をなすべき時が來た事と思ひます。

△本號に於ては「家庭に對する希望」といふ問題で若い方々の御意見を集めました、之によりて世の教育者若くは父兄方が、現代の若い婦人の心持ちを御知りになる事が出來ましたなら監督上、教導上或は交際上に尠からぬ便利を得らるゝ事だらふと思ひます。

△吉原が燒けまして以來矯風會の方々は其後益々公娼全廢運動に盡力され或は都下の新聞記者を招待して其意見を陳べ、或は公會演說等其活動は中々に目ざましいものがあります。其結果の如何云ふ風に終りますにしろ、悲慘なる運命の下に苦める同性のため、吾國道德の作興のために、かゝる努力は誠に尊いものであると存じます。

△此問題は今日まで重に基督教界の婦人によりて運動されて居りましたが、今度婦女新聞社主催で佛教家や教育家の方面の方々も合せ演說會を開催するとか聞きました。只に之は基督教婦人の荷負ふ可き問題ではないのでありますから、其他の方面の方々の活動も當然な事と私共は大に意を强うする次第であります。

△去月十四日の午後に本鄕教會で婦人講演會が開かれました、折あしく强雨で難義な日で御座いましたが、それでも百名近くの御來會者がありました、二宮貞子、小此木松子、村田勤の三氏の御講演は熱心な誠に有益なものでありました、村田氏のは本號で御紹介申して置きましたから御精讀を願ひます。二宮、小此木二氏のは來月號で御紹介申す筈で御座います。

△本誌の挿畫で其才筆を揮つておゐでになる有田四郎氏は淡路島に寫生修業中で御座いましたが、近々歸京するとの報が參りました、有田氏と共に挿畫をかいて下さる栗原あや子さんの巴會に御出品になつた子供の繪は宮內省から御買上の光榮を荷はれたそうで御座います。

本誌定價（一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價（壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廿七字詰行	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと

●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京小石川林町四十三番地　新人社（振替貯金口座一四〇〇五）

明治四十四年五月二十八日印刷
明治四十四年六月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地
發行兼編輯人　海老名彈正

東京市小石川區丸山町四番地
印刷人　相原一郎介

東京市小石川區林町四十三番地
發行所　新人社

東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羽仁もと子主筆

婦人之友

六月一日發行　第一號　一冊金拾五錢五厘　郵税一錢五厘　（六冊前金九十錢　十二冊一圓七十五錢）郵税共

●如何なる結婚が最も幸福なりや
（其一 小崎千代子　其二 三輪田眞佐子　其三 栗塚龍子　其四 棚橋絢子
其五 山脇房子　其六 有島幸子　其七 小此木信六郎　其八 金子筑水
其九 海老名みや　其十 木下尚江（十大家の穩健適切なる意見）

◎夫の放蕩に苦める妻へ　綱島佳吉
◎娘に家事を手傳はせよ　井深花子
◎嬰兒を泣かせずに育てる法　羽仁もと子
◎家を上手に持つ工夫　羽仁もと子

▲私の見た西洋の家
▲唱歌に合ふ新式の舞
▲吉事の訪問と贈物は
▲留守居の心得（女中訓）
▲六月の總菜（三十日分献立）
▲家政問答（質問隨意）

●理想の生活（花子の巻）巻頭を飾れる一大文字……羽仁もと子

◎結核は子供に一番多い　醫學博士 加藤照麿
◎袴を恰好よく縫ふ工夫　齋藤春代
◎一圓五十錢で出來る夏の丸帶　柳子
◎甘煮は斯うすれば上手に出來る

〔畫報〕
▲初夏の富士（大下畫伯）
▲若き主婦の一日
▲鬼ごつこと隱れんぼ
▲子供の笑顏三十種
▲愛兒の發達（日本と西洋）
▲薔薇の園（今や滿開）
▲養蠶のいろ〳〵
▲女中の仕事いろ〳〵

●女（雪嶺博士は毎號本誌に執筆せらる）……文學博士 三宅雄二郎
●夫婦論（結婚の準備時代を如何に過すべきか）……羽仁もと子

▲誰でも出來る懸賞問題
（一等十圓　二等五圓　三等二圓）
▲台所改良の工夫を募る
▲寢冷知らずの案を募る
詳細本號を見よ

東京市小石川區雜司ヶ谷町　婦人之友社　振替貯金口座東京一一六〇〇番

謹告

一金四拾貳圓六拾錢　東京基督教青年會補助金

一金拾八圓　東洋宣教會殿

一金八圓　新人社殿

一金壹圓　青山　德富夫人殿

一金參圓　靈巖病院長ドクトル　和田劍之助殿

一金壹圓　川上病院長ドクトル　川上保昌殿

一金貳圓　尾林工場主殿

右御惠助被下謹デ御禮申上候

田口病院長　田口潔矩殿

右當所ノ爲メ施療ヲ御引受下サレ御厚志鳴謝ニ不耐申候

東京基督教青年會主事　山本邦之助殿

女子大學校長　成瀨仁藏殿

同　大學教授　松浦政泰殿

小石川林町　荘田平五郎殿

本鄕區妙義坂　藤岡邸殿

古河別邸執事　山名鐵四郎殿

青山南町　松岡藏子殿

右當所ノ趣旨ニ御同情被下種々御配慮ニ預リ光榮ノ至リニ御座候謹デ御禮申上候

本所區相生町三丁目七番地

東京無料職業紹介所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新人第拾貳卷第六號目次（六月一日發行）

◎社　説

◉國民道德の根本を發揮せよ

◎教　壇

◉基督の自覺　海老名彈正

◎想　苑

◉東洋思想と基督教の交渉　赤司繁太郎
◉文藝觀上の神秘主義　川島金五郎
◉社會事業の新紀元　鈴木文治
◉兄弟の苦しみ　佐藤清
◉日本ナイトの記　海老名一雄
◉友の行方　和田孤峰

◎聖書講義

◉馬可傳　海老名彈正

◎雜　俎

◉故デフオレスト博士を懷ふ　片桐清治氏　小崎弘道氏

◎東都講壇

日野眞澄氏　ポール氏
キユリツク氏　島田三郎氏
ベラー氏　ローランド氏
ベドレー氏　グリーン氏
大立目文彌氏　シユネーダー氏
オブライン氏　早川智寛氏

◉我國民思想に及ぼせる歐米思想の功過　吉田熊次氏

◎文藝小觀

◉五月の小説、評論、戲曲

◎時　評

◉名古屋協同大傳道の中止
◉大浦男の宗教觀
◉デフオレスト博士の死を悼む
◉婦人問題の賑盛
◉神經衰弱と其療法
△新刊紹介　△編輯だより

發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社（電話番町二五四四番　振替口座一四〇〇五）

日本輸入品に限り包裝紙に斜に「アイボリー石鹼」と記入し一見模造惡質石鹼と判別に容易ならしむ御購求の節「アイボリー石鹼」に御注意を乞ふ

▲合本出來▼

新人　第十一卷
代價送料共　金一圓三十錢

新女界　第二卷
同　金一圓

裝釘堅牢優美永久保存に絶好也

社告

會計整理上迷惑不尠候に付き本誌代金滯納の御方は此際至急御拂込被下度此段奉懇願候

追而御拂込の際は振替にて拂込るゝ方便利に候、但手數料金壹錢御加へ被下度候

東京小石川區林町四十三番地
新人社
振替口座一四〇〇五

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、
松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、
電本 八八八番(病院用)
八九八番(私宅用)

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱、從停車場半里
電 チガサキ二番

南湖院

河野、高橋両副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

新女界

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十四年六月一日發行第參卷第六號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN